

【(細目)1-2-2-②】	連携協力・地方における上演等[現代舞台芸術の公演]	【評定】 B			
<p>【法人の達成すべき計画】</p> <p>(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等 [現代舞台芸術の公演]</p> <p>ア より幅広く多くの方が鑑賞することを目指して、分野ごとに前中期目標期間の実績を超えるよう、主催公演の実施に当たっては、個々の実施目的、演目、過去の鑑賞者数の状況等を踏まえた適切な鑑賞者数の目標を設定し、その達成に努める。</p> <p>イ 外部専門家等の意見を聴取するとともに、アンケート調査を適宜実施し、公演事業に反映させる。</p> <p>ウ 国、地方公共団体、芸術団体、企業等と連携協力し、共催、受託などによる公演等の実施に努める。</p> <p>エ 全国各地において広く伝統芸能及び現代舞台芸術を鑑賞できる機会を確保するため、国、地方公共団体、教育委員会等と連携協力を図り、各地の文化施設等において実施する。</p> <p>オ 我が国の伝統芸能及び現代舞台芸術の海外における理解の促進と活性化等に寄与するため、国等との連携協力を図り、舞台芸術等の国際交流に資する公演等の実施に努める。</p>		H20	H21	H22	H23
		B	B	A	B
		実績報告書等 参照箇所			
		業務実績報告書 117 頁～126 頁			

【インプット指標】					
(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24
決算額(百万円)	126	207	116	106	171
従事人員数(人)	7	7	7	6	4
<p>1) 決算額は、外部公演収入を計上している。</p> <p>2) 従事人員数は、新国立劇場・おきなわ部管理課新国立劇場系の常勤職員の人数を計上している。その際、役員及びその他の職員は勘案していない。</p>					

評価基準(年度計画及び評価の視点)	実績	分析・評価																						
<p>2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演</p> <p>(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等</p> <p>ア 外部専門家等の意見を聴取するとともに、アンケート調査を適宜実施し、公演事業に反映したか。</p> <p>イ 国、地方公共団体、芸術団体、企業等と連携協力し、国立劇場、新国立劇場等において共催、受託などによる公演等を実施したか(平成 24 年度年度計画[別表 4-1]を参照)。</p> <p>ウ 国、地方公共団体、教育委員会等と連携協力を図り、全国各地の文化施設等において公演</p>	<p>2-①—⑥ 現代舞台芸術の公開に際しての留意事項等</p> <p>1. 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施</p> <p>① 外部専門家等の意見聴取 各部門の専門委員に各公演についてのレポート提出を依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に生かした。</p> <p>② アンケート調査の実施</p> <table border="1" data-bbox="667 1117 1473 1340"> <thead> <tr> <th>分野</th> <th>有効回答数</th> <th>概ね満足との回答(回答数)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オペラ</td> <td>6,057 人</td> <td>90.8%(5,499 人)</td> </tr> <tr> <td>バレエ</td> <td>1,940 人</td> <td>93.3%(1,810 人)</td> </tr> <tr> <td>現代舞踊</td> <td>403 人</td> <td>87.8%(354 人)</td> </tr> <tr> <td>演劇</td> <td>704 人</td> <td>91.9%(647 人)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>9,104 人</td> <td>91.3%(8,310 人)</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力</p> <p>(1)平成 25 年度(第 68 回)文化庁芸術祭</p> <table border="1" data-bbox="649 1428 1720 1484"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>公演名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	分野	有効回答数	概ね満足との回答(回答数)	オペラ	6,057 人	90.8%(5,499 人)	バレエ	1,940 人	93.3%(1,810 人)	現代舞踊	403 人	87.8%(354 人)	演劇	704 人	91.9%(647 人)	合計	9,104 人	91.3%(8,310 人)	区分	公演名			<p>・オペラでは鑑賞教室は地方でも行われているが、まだ地方での本格的な公演は少ない。装置を簡略化するなどして、積極的に地方公演の機会を増やす努力をしてほしい。</p> <p>・バレエは、いかにも子供向けなのは疑問である。数少ない地方公演なのだから、真にレベルの高い作品を持つていくべきである。</p> <p>・演劇の「まほろば」の地方公演など一部に成果は見られたが、ナショナルシアターとしての使命からみると十分ではない。</p>
分野	有効回答数	概ね満足との回答(回答数)																						
オペラ	6,057 人	90.8%(5,499 人)																						
バレエ	1,940 人	93.3%(1,810 人)																						
現代舞踊	403 人	87.8%(354 人)																						
演劇	704 人	91.9%(647 人)																						
合計	9,104 人	91.3%(8,310 人)																						
区分	公演名																							

<p>を実施したか(平成24年度年度計画[別表4-2]を参照)。 エ 国等との連携協力を図り、舞台芸術等の国際交流に資する公演等を実施したか(平成24年度年度計画[別表4-3]を参照)。</p> <p>[平成24年度年度計画別表4-1の概要] 国、芸術団体等との連携協力に関する計画 ・共催 1公演</p> <p>[平成24年度年度計画別表4-2の概要] 全国各地における上演に関する計画 ・共催 1公演 ・受託 9公演</p> <p>[平成24年度年度計画別表4-3の概要] 国際交流公演等 ・1公演</p>	<table border="1" data-bbox="651 86 1720 352"> <tr> <td data-bbox="651 86 763 220">主催公演</td> <td data-bbox="763 86 1720 220">オペラ劇場: オペラ「ピーター・グライムズ」、バレエ「シルヴィア」 小劇場: 演劇「るつぼ」</td> </tr> <tr> <td data-bbox="651 220 763 352">協賛公演</td> <td data-bbox="763 220 1720 352">オペラ劇場: オペラ「トスカ」、「セビリアの理髪師」 中劇場: 演劇「リチャード三世」 小劇場: 現代舞踊「森山開次『曼荼羅の宇宙』」、「DANCE PLATFORM2012」</td> </tr> </table> <p>(2) 国・地方公共団体等との後援・協力 (バレエ) ・地域招聘公演 貞松・浜田バレエ団 Aプログラム「くるみ割り人形」(全幕 新ヴァージョン「お伽の国」) Bプログラム「6DANCES」/「Memoryhouse」/「DANCE」 新国立劇場中劇場、1月12日(土)/14日(月・祝) 15:00 2回公演 入場者数: 1,347名(入場率 74.8%) 主催: 貞松・浜田バレエ団、新国立劇場(共催)</p> <p>(3) 大学との連携・協力 前年度の東京藝術大学に続き、武蔵野音楽大学、国立音楽大学、東京音楽大学、大阪音楽大学、桐朋学園大学、北海道教育大学、昭和音楽大学の7大学との間で連携・協力に関する協定を締結した。</p> <p>3. 全国各地の文化施設等における公演</p> <p>(1) オペラ ① 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演「愛の妙薬」 芸術監督=尾高忠明 作曲=ガエターノ・ドニゼッティ 指揮=城谷正博 演出=チェーザレ・リエヴィ 出演=光岡暁恵、大槻孝志、成田博之、鹿野由之、九嶋香奈枝 合唱=新国立劇場合唱団 管弦楽=大阪フィルハーモニー交響楽団 日時: 10月24日(水)13:00・25日(木)14:30 開演 2回公演 会場: 尼崎市総合文化センター あましんアルカイックホール 入場者数: 2,685人(入場率 78.9%) 主催: 尼崎市/公益財団法人 尼崎市総合文化センター/新国立劇場 助成: 公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション 協賛: ローム株式会社</p> <p>(2) バレエ ① こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」 芸術監督=デヴィッド・ビントレー</p>	主催公演	オペラ劇場: オペラ「ピーター・グライムズ」、バレエ「シルヴィア」 小劇場: 演劇「るつぼ」	協賛公演	オペラ劇場: オペラ「トスカ」、「セビリアの理髪師」 中劇場: 演劇「リチャード三世」 小劇場: 現代舞踊「森山開次『曼荼羅の宇宙』」、「DANCE PLATFORM2012」	<p>・7大学との間で連携・協力に関する協定が締結されている。今後は、本協定を実のあるものにすべく、取り組まれない。</p>
主催公演	オペラ劇場: オペラ「ピーター・グライムズ」、バレエ「シルヴィア」 小劇場: 演劇「るつぼ」					
協賛公演	オペラ劇場: オペラ「トスカ」、「セビリアの理髪師」 中劇場: 演劇「リチャード三世」 小劇場: 現代舞踊「森山開次『曼荼羅の宇宙』」、「DANCE PLATFORM2012」					

音楽＝セルゲイ・プロコフィエフ

監修＝牧阿佐美

振付＝小倉佐知子

出演＝新国立劇場バレエ団

1)日時:8月11日(土)14:00 開演 1回公演

会場:兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

入場者数:1,996人(入場率93.9%)

主催:公益財団法人朝日新聞文化財団／大阪国際フェスティバル協会／朝日新聞社／兵庫県／兵庫県立芸術文化センター

2)日時:8月19日(日)15:00 開演 1回公演

会場:柏崎市文化会館アルフォーレ 大ホール

入場者数:914人(入場率90.3%)

主催:新潟県／新潟県舞踊芸術普及育成事業実行委員会／柏崎市文化会館アルフォーレ

3)日時:8月26日(日)13:00 開演 1回公演

会場:サンポートホール高松 大ホール

入場者数:1,374人(入場率92.6%)

主催:公益財団法人高松市文化芸術財団／高松市

4)日時:9月1日(土)15:00 開演 1回公演

会場:茅ヶ崎市民文化会館 大ホール

入場者数:1,238人(入場率90.0%)

主催:財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団

5)日時:9月5日(水)11:50 開演 1回公演

会場:桐蔭学園鶴川メモリアルホール

入場者数:1,350人(入場率81.2%)

主催:学校法人桐蔭学園

② 「シンデレラ」全国公演

音楽＝セルゲイ・プロコフィエフ

振付＝フレデリック・アシュトン

出演:新国立劇場バレエ団

日時:1月6日(日)13:30 1回

会場:新潟県民会館

入場者数:920人(入場率56.0%)

主催:新潟県／公益財団法人新潟県文化振興財団／新潟県舞踊芸術普及育成事業実行委員会

(3)演劇

① 「まほろば」全国公演

芸術監督＝宮田慶子

作＝蓬萊竜太

演出＝栗山民也

出演＝秋山菜津子、中村たつ、魏涼子、前田亜季、大西風香、三田和代

1)日時:4月18日(水)19:00 開演 1 回公演

会場:まつもと市民芸術館 実験劇場

入場者数:247人(入場率 73.5%)

主催:まつもと市民芸術館／信濃毎日新聞社

2)日時:4月21日(土)14:00 開演 1 回公演

会場:兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール

入場者数:647人(入場率 84.7%)

主催:兵庫県／兵庫県立芸術文化センター

3)日時:4月28日(土)13:30 開演 1 回公演

会場:山形シベールアリーナ

入場者数:333人(入場率 69.8%)

主催:公益財団法人 弦 地域文化支援財団

② 「負傷者 16 人—SIXTEEN WOUNDED—」全国公演

芸術監督＝宮田慶子

作＝エリウム・クライエム

翻訳＝常田景子

演出＝宮田慶子

出演＝井上芳雄、東風万智子、粟野史浩、あめくみちこ、益岡徹

1)日時:5月26日(土)17:00 開演、27日(日)13:00 開演 2 回公演

会場:兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール

入場者数:1,188人(入場率 79.3%)

主催:兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

③ 「音のいない世界で」全国公演

芸術監督＝宮田慶子

作・演出＝長塚圭史

振付＝近藤良平

出演＝近藤良平 首藤康之 長塚圭史 松たか子

1)日時:1月22日(火)18:30、1 回公演

会場:山形シベールアリーナ

入場者数:484人(入場率 99.0%)

主催:山形県、公益財団法人弦地域文化支援財団

2)日時:1月24日(木)19:00 /25日(金)19:00、2 回公演

会場:仙台市宮城野区文化センター パトナシアター

入場者数:360名(入場率 94.7%)

主催:仙台市、公益財団法人仙台ひと・まち交流財団、公益財団法人仙台市市民文化事業団

3)日時:1月27日(日)15:00 /18:30、2 回公演

会場:北上市文化交流センター さくらホール

入場者数:794名(入場率 88.2%)

	<p>主催:財団法人北上市文化創造、北上市</p> <p>(4)新国立劇場合唱団外部出演公演</p> <p>① NHK 交響楽団 定期演奏会 デュリュフレ「レクイエム」 指揮=尾高忠明 管弦楽=NHK 交響楽団 合唱=新国立劇場合唱団(100名出演) 日時:5月12日(土)18:00/13日(日)15:00 2回公演 会場:NHKホール 主催:公益財団法人NHK交響楽団</p> <p>② 東京フィルハーモニー交響楽団 定期演奏会 ショハット「アルファとオメガ」(演奏会形式) 指揮:ダン・エッティンガー 管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団 合唱:新国立劇場合唱団(70名出演) 日時/会場:5月20日(日)15:00開演/Bunkamura オーチャードホール 5月23日(水)19:00開演/サントリーホール 主催:公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団</p> <p>③ 横浜芸術アクション事業 プッチーニ「蝶々夫人」(演奏会形式) 指揮:沼尻竜典 管弦楽:桐朋学園オーケストラ 合唱=新国立劇場合唱団(30名出演) 日時:6月30日(土)15:00 会場:横浜みなとみらいホール 大ホール 主催:公益財団法人横浜市芸術文化振興財団</p> <p>④ 東京オペラシティコンサートホール開館15周年記念公演 モンポウ「インプロペリア」 指揮:アントニ・ロス・マルバ 管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団 合唱:新国立劇場合唱団(60名出演) 日時:9月1日(土)15:00 会場:東京オペラシティコンサートホール 主催:公益財団法人東京オペラシティ文化財団</p> <p>⑤ 文化庁24年度次世代の子どものための舞台芸術体験事業 ヴェルディ「椿姫より乾杯の歌」他 指揮:富平恭平 ピアノ:平塚洋子 合唱:新国立劇場合唱団(30名出演) 日程/会場:9月3日(月)/青森県 平内町立山口小学校 9月4日(火)/青森県 県立青森若葉養護学校 9月5日(水)/秋田県 大館市立早口小学校 9月6日(木)/秋田県 鹿角市立尾去沢中学校 9月7日(金)/岩手県 住田町立有住中学校 9月10日(月)/宮城県 気仙沼市立松岩小学校</p>	
--	---	--

9月11日(火) / 宮城県 気仙沼市立条南中学校
9月12日(水) / 宮城県 大崎市立松山中学校
9月13日(木) / 宮城県 登米市立豊里中学校
9月14日(金) / 宮城県 女川町立女川第二小学校
9月18日(火) / 宮城県 利府町立利府西中学校
9月19日(水) / 宮城県 角田市立北角田中学校
9月20日(木) / 宮城県 角田市立枝野小学校

- ⑥ Music Weeks in TOKYO 2012 スーパー・コーラス・トーキョー特別公演マーラー「嘆きの歌」
指揮: エリアフ・インバル
管弦楽: 東京都交響楽団
合唱: スーパー・コーラス・トーキョー(新国立劇場合唱団 21名が参加)
日時/会場: 10月3日(水)19:00 / 東京文化会館大ホール
10月4日(木)19:00 / オリンパスホール八王子
主催: 東京都、東京文化会館・東京文化発信プロジェクト室
- ⑦ Music Weeks in TOKYO 2012 まちなかコンサート オルフ「カルミナ・ブラーナ」ほか
指揮: 高関 健
管弦楽: 東京フィルハーモニー交響楽団
合唱: スーパー・コーラス・トーキョー(新国立劇場合唱団 9名が参加)
日時: 10月6日(土)15:00
会場: 立川市市民会館大ホール
主催: 東京都、東京文化会館、東京文化発信プロジェクト室
- ⑧ 読売日本交響楽団第553回サントリーホール名曲シリーズ・第198回東京芸術劇場名曲シリーズ ラベル「ダフニスとクロエ」
指揮: シルヴァン・カンブルラン
管弦楽: 読売日本交響楽団
合唱: 新国立劇場合唱団(60名)
日時/会場: 10月18日(木)19:00 / サントリーホール
20日(土)14:00 / 東京芸術劇場
- ⑨ マリンスキー歌劇場管弦楽団 ドニゼッティ「ランメルモールのルチア」(演奏会形式)
指揮: ワレリー・ゲルギエフ
管弦楽: マリンスキー歌劇場管弦楽団
合唱: 新国立劇場合唱団(64名出演)
日時: 11月12日(月)19:00
会場: サントリーホール
主催: ジャパン・アーツ / 日本経済新聞社
- ⑩ 読売日本交響楽団第520回定期演奏会・第149回東京芸術劇場マチネーシリーズ ブラームス「悲歌」「運命の女神の歌」ほか
指揮: ラファエル・フリュベック・デ・ブルゴス
管弦楽: 読売日本交響楽団
合唱: 新国立劇場合唱団(60名出演)

日時/会場:11月29日(木)19:00/サントリーホール

12月1日(土)14:00/東京芸術劇場

主催:公益財団法人読売日本交響楽団

- ⑪ プレミアムコンサート武蔵野公演 ヴェルディ「アイダ～凱旋の合唱」他

指揮:梅田俊明

管弦楽:東京都交響楽団

合唱:スーパー・コーラス・トーキョー(新国立劇場合唱団15名が参加)

日時:12月2日(日)15:00

会場:武蔵野市民文化会館

主催:公益財団法人東京都交響楽団

- ⑫ 読売日本交響楽団 ベートーヴェン「交響曲第9番 合唱付」

指揮:シルヴァン・カンブルラン

管弦楽:読売日本交響楽団

合唱:新国立劇場合唱団(80名出演)

日時/会場:12月19日(水)19:00・21日(金)19:00 2回公演 /サントリーホール

12月22日(土)18:00・23日(日)14:00 2回公演 /東京芸術劇場

12月24日(月)14:00 /横浜みなとみらいホール

12月26日(水)19:00 /東京オペラシティ コンサートホール

主催:公益財団法人読売日本交響楽団、読売新聞社 ほか

- ⑬ 第56回NHKニューイヤー・オペラコンサート ナブッコ「行け、我が思いよ」他

指揮:下野竜也

管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団

合唱:新国立劇場合唱団(26名)～二期会合唱団、藤原歌劇団合唱部と合同

日時:1月3日(火)19:00

会場:NHKホール

主催:NHK、NHKプロモーション

- ⑭ 東京フィルハーモニー交響楽団 ロッシーニ「小荘厳ミサ曲(オーケストラ版)」

指揮:ダン・エッティンガー

管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団

合唱:新国立劇場合唱団(70名)

日時/開場:1月17日(木)19:00/東京オペラシティコンサートホール

1月18日(金)19:00/サントリーホール

主催:公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団

- ⑮ 文化庁24年度次世代の子どものための舞台芸術体験事業 ヴェルディ「椿姫より乾杯の歌」他

指揮:三澤洋史

ピアノ:三澤志保

合唱:新国立劇場合唱団(30名)

日程/会場:2月12日(火) /北海道 札幌市立東札幌小学校

2月13日(水) /北海道 札幌市立ひばりが丘小学校

2月14日(木) /北海道 札幌市立二十四軒小学校

2月15日(金)／北海道白糠養護学校(釧路)

⑩ 東京フィルハーモニー交響楽団 特別演奏会 シェーンベルク「グレの歌」

指揮:尾高忠明

管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団

合唱:新国立劇場合唱団(120名出演)

日時:2月23日(土)15:00開演

会場:Bunkamura オーチャードホール

主催:公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団

⑪ Music Weeks in TOKYO プレミアムコンサート ヴェルディ「アイダ～凱旋の合唱」他

指揮:山下一史

管弦楽:東京都交響楽団

合唱:スーパー・コーラス・トーキョー(新国立劇場合唱団15名が参加)

日時/会場:3月6日(水)19:30開演/板橋区立文化会館

3月7日(木)19:30開演/文京シビックホール

主催:東京都、東京文化会館、東京文化発信プロジェクト室

(5)新国立劇場研修所研修生等外部出演公演

① 浜離宮ランチタイムコンサート vol.100 木村俊光と巡るオペラの旅 2

解説:木村俊光

出演:倉本絵里、今野沙知恵、柴田紗貴子、立川清子、林よう子、吉田和夏、藤井麻美
伊藤達人、日浦真矩、後藤春馬、村松恒矢

ピアノ:石野真穂

日時:5月23日(水)11:30

会場:浜離宮朝日ホール

入場者数:550名

主催:朝日新聞社

② 浜離宮ランチタイムコンサート vol.104 木村俊光と巡るオペラの旅 3

解説:木村俊光

出演:今野沙知恵、林よう子、清野友香莉、原璃菜子、藤井麻美、伊藤達人、日浦真矩、
菅野 敦、小堀勇介、村松恒矢、後藤春馬

ピアノ:野間春美

日時:9月26日(水)11:30

会場:浜離宮朝日ホール

入場者数:550名

主催:朝日新聞社

③ 国立新美術館クリスマスオペラコンサート

出演:山口清子、高橋絵理、小林紗季子、岡昭宏

ピアノ:谷池重紬子

日時:12月7日(金)18:30

会場:国立新美術館1階ロビー

入場者数:327名

主催:国立新美術館

④ トウキョウ・モーツァルト・プレーヤーズオペラプロジェクト第4弾「コジ・ファン・トゥッテ」

日時:12月9日(日)15:00

会場:三鷹市芸術文化センター風のホール

指揮:沼尻竜典

管弦楽:トウキョウ・モーツァルト・プレーヤーズ

出演:研修生5名、修了生1名

入場者数:334名

主催:公益財団法人三鷹市芸術文化振興財団

4. 舞台芸術等の国際交流

- ・ 日中国交正常化 40 周年記念・2012「日中国民交流友好年」認定行事として、オペラ「アイダ」(コンサート形式)を日中両国で実施した(7月27日、29日・新国立劇場オペラ劇場、8月3日、5日・国家大劇院オペラハウス(中国北京))。
- ・ 韓国ソウル市国立劇場(ヘオルム劇場)の招きで、「日韓文化交流公演～同行～」に当時ソリスト(現ファースト・ソリスト)の米沢唯と菅野英男が出演し、「新国立劇場バレエ団『ドン・キホーテ』よりグラン・パ・ド・ドウ」を踊った(5月16日、主催:韓日文化交流会議)。
- ・ デヴィッド・ビントレー舞踊芸術監督が兼務する英国バーミンガム・ロイヤル・バレエ「アラジン」(英国初演)にプリンシパルの小野絢子と福岡雄大がゲストダンサーとして出演した(2月)。
- ・ モスクワ(ロシア)ボリショイ劇場他で開催されたオペラ・ヨーロッパの年次総会に出席し、各国の劇場関係者と情報交換に努めた(10月25日～28日)。また、同事務局より加盟機関の2011年度(平成23年度)の運営状況に関する統計資料の提供依頼があったため、必要資料を提出した。
- ・ 台北(台湾)国立劇場他で開催されたアジア太平洋パフォーミング・アーツ・センター連盟(AAPPAC)の年次総会に出席し、各国の劇場関係者と情報交換に努めた(10月25日～27日)。
- ・ 北京(中国)国家大劇院で開催された「世界劇場フォーラム2012」に出席し、各国の劇場関係者と情報交換に努めた(6月21日・22日)。
- ・ 新国立劇場のオペラやバレエ作品制作における海外の芸術家や劇場との連携協力を広く紹介するために、オペラ公演「ローエングリン」や「ピーター・グライムズ」において、『国際連携プロジェクト』として、作品制作に携わる海外の演出家や美術家等を招いてトーク・ショーを開催、またオペラ「ピーター・グライムズ」やバレエ「シルヴィア」等において、関連の展示会を開催した。
- ・ 文化庁「外国人芸術家・文化財専門家招へい事業」により来日した芸術家2名の受け入れを行い、研修所での講義や研修生への指導、情報交換などを実施した。
- ・ オペラ「ローエングリン」においてオーストリアより研修生を受け入れた(演出部門)。
- ・ 海外から劇場関係者など5ヶ国10団体91名の訪問受け入れを行った。主な来訪者は以下のとおり。

韓国からソウル・アーツ・センター(芸術の殿堂)のスタッフ、中央大学校教授等、台湾から東呉音楽大学院教授等、国立劇場スタッフ、台中メトロポリタン・オペラハウス建築メンバー、中国から劇場視察団、英国からオペラ観劇グループ、等。

- ・ 「在日各国大使のオペラ・バレエ鑑賞プログラム」を実施し、新国立劇場が、内外で高い評価を受けるオペラ専門劇場を有しており、質の高いオペラ・バレエを制作し、上演していることを国際的に発信し

た。また、芸術・文化面における新たな観点からの日本に対する理解の増進を図り、国際交流の振興に寄与した。実施公演と大使(公使等による代理出席含む)、文化機関等の参加国は以下のとおり。

- ①オペラ「ローエングリン」 6月1日(金)17:00開演 (13カ国 文化機関4)
(大使)オーストリア、ベルギー、EU、ドイツ、アイルランド、ラトビア、オランダ、ポルトガル、スペイン、トルコ、ウクライナ、マレーシア、フィンランド
(文化機関)ドイツ、スペイン、アメリカ、中国
 - ②オペラ「ピーター・グライムズ」 10月2日(火)18:30開演 (8カ国 文化機関2)
(大使)ベルギー、EU、ドイツ、フィンランド、ラトビア、スペイン、イギリス、韓国
(文化機関)フランス、イギリス
 - ③バレエ「シルヴィア」 10月27日(土)14:00開演 (7カ国 文化機関1)
(大使)ハンガリー、アイルランド、ラトビア、ポルトガル、イギリス、ベネズエラ、韓国
(文化機関)イギリス
 - ④オペラ「アイダ」 3月11日(月)18:00開演 (12カ国 文化機関1)
(大使)ベルギー、EU、ドイツ、スロヴァキア、スペイン、スイス、ウクライナ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、韓国、マレーシア
(文化機関)イギリス
- (※国名は欧州／北・中南米／オセアニア／アジアの、それぞれ英文国名アルファベット順)

【特記事項】

- ・ 「こどものためのバレエ劇場」の関連企画として以下の通りワークショップを行った。
 - 6月2日(土)新井ふれあい会館ふれあいホール(参加者47名)
 - 6月3日(日)上越文化会館大ホール(参加者34名)
 - 7月14日(土)柏崎市文化会館アルフォーレ・マルチホール(参加者42名)
 - 7月31日(火)サンポートホール高松リハーサル室(2回実施、参加者71名)
 - 8月7日(火)茅ヶ崎市民文化会館練習室(参加者16名)
- ・ サンポートホール高松発行の季刊誌において、高松市出身のバレエ研修生の記事が取り上げられた。また同研修生は高松公演に出演した。
- ・ バレエ「シンデレラ」新潟公演の関連企画として、クラスレッスン見学会を1月5日(金)、新潟県民会館にて行った。(参加者約60名)
- ・ 新潟県で行った「こどものためのバレエ劇場」及びバレエ「シンデレラ」は、主催者である「新潟県舞踊芸術普及育成事業実行委員会」が文化庁「地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ」事業へ申請を行い、助成金を得て上演が実現したものである。
- ・ バレエ「シンデレラ」新潟公演の主役2人(小野、福岡)に対して、新潟日報がインタビュー取材を行い、事前告知を行った。また、主催者発行の機関紙が、主役2人に加え新潟県出身の出演者(竹田仁美)にインタビューを行い、事前告知を行った。
- ・ 演劇「まほろば」兵庫公演については、主催者側が販促用チラシ作成したほか、読売新聞大阪版のコラム「芝居をよむ」に作家の蓬萊竜太インタビューを掲載し、チケット販売強化につなげた。
- ・ 演劇「負傷者16人—SIXTEEN WOUNDED—」兵庫公演については、主催者が稽古場取材を元にした販促用チラシ作成したほか、朝日新聞、読売新聞それぞれ大阪版にて事前記事が掲載された。また、チケット販売において、出演者(井上芳雄)のファンクラブ先行受付を実施した。

- ・ 演劇「音のいない世界で」北上公演の関連企画として、宮田慶子芸術監督によるリーディングワークショップを1月12日(土)、13日(日)、北上文化交流センターさくらホール練習室にて行った。
- ・ 演劇「音のいない世界で」仙台公演および北上公演の舞台仕込みにおいて、大道具や照明等の仕込みの作業状況を見学する「仕込み見学会」を実施した。両会場とも20名程の参加者が、舞台や楽屋など普段見ることのできない場所を、各会場スタッフの説明を受けながら2時間ほど見学をした。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ ほぼ全演目でアンケート調査を実施した。特に平成24年度後期には入場時にキャスト表とともにアンケート用紙を希望者に配布し、終演後に粗品と引換に回収する「特別アンケート」を行う体制を整え、回収率向上を実現することができた。
- ・ 全国公演については、文化庁「地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ」事業の効果もあり、前年度以上の大幅な拡充を実現した。各会場とも、主催者、観客から公演内容について高い評価を得ており、改めて新国立劇場の存在を知らしめることができた。また各主催者より、引き続き新国立劇場制作の質の高い舞台を提供してほしいとの要望があった。
- ・ 今年度も「高校生のためのオペラ鑑賞教室『愛の妙薬』」を尼崎市総合文化センターとの共催で上演、2,500人を超える高校生がオペラを鑑賞し、関西においてもオペラの普及に資することができた。
- ・ 「こどものためのバレエ劇場」については、新国立劇場での上演が内定した早いタイミングから全国公演の交渉を行った結果、5カ所での実現に至った。公演だけではなく、ワークショップに関しても高い評価を得ており、ワークショップの実施が公演実施における必須要因ともなっている。兵庫公演においては、早い段階においてチケットが完売となった。他の会場においても、高い入場率を記録した。
- ・ 演劇「まほろば」では、新国立劇場での再演が内定した早いタイミングから全国公演の交渉を行った結果、3カ所での実現に至った。各地域においてチケットの販売戦略が異なるため、各会場それぞれオリジナルデザインによりチラシを製作した。
- ・ 演劇「負傷者16人 —SIXTEEN WOUNDED—」兵庫公演では、新作で宣伝材料が乏しかったため、主催者及び関西新聞記者が新国立劇場の稽古場に来場し、取材を行うなど、販売促進面での連携を図ることができた。
- ・ 演劇「音のいない世界で」では、出演者サイドより全国公演は東北に行きたいとの要望もあり、新国立劇場にとっては初めてとなる仙台、北上を含む3ヶ所の全国公演が成立した。各会場ともチケットが売切れとなり、北上は追加公演を設定することとなった。
- ・ 新国立劇場合唱団出演公演関係では、昨年に引き続き、NHK交響楽団や東京フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団、読売日本交響楽団、マリンスキー歌劇場管弦楽団などの著名オーケストラや、世界的に活躍する多くの指揮者との共演による各種演奏会など積極的に外部へ出演したほか、文化庁の平成24年度「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」を受託し、東北及び北海道の小中学校等計17校を巡回、多くの子供たちに生の歌声に触れる機会を提供するなど、多彩な活動を展開した。
- ・ 次年度以降も国際交流公演や全国公演、全国各地との共同制作公演、地域招聘公演等の事業を推進し、全国にオペラ、バレエ、現代舞踊、演劇の魅力を伝えるとともに、全国地域で上演されている優れた現代舞台芸術のプロダクションを紹介し、新国立劇場の存在意義を示す一助ともしたい。

	<p>・ 舞台芸術等の国際交流については、中国国家大劇院との間で 2011 年 4 月に締結した合意書に基づき、国交正常化 40 周年記念 2012「日中国民交流友好年」認定行事としてオペラ「アイダ」(コンサート形式)を、中国国家大劇院との共催により新国立劇場及び中国国家大劇院(北京)にて上演し、両国間の文化交流に資したほか、オペラ・ヨーロッパ及びアジア太平洋パフォーミング・アーツ・センター連盟(AAPPAC)の年次総会や北京(中国)国家大劇院で開催された「世界劇場フォーラム 2012」に参加し、各国の劇場関係者との情報交換に努めた。また、海外から多くの芸術家や研修生、その他劇場関係者等の訪問を受入れ、情報交換を行うとともに、優れた舞台芸術家の育成にも寄与し、新国立劇場の海外での存在感を高めることができた。今後とも諸外国及び各国の劇場との国際文化交流の一層の発展を図り、引き続き推進していくこととしている。</p>	
--	--	--

【(細目)1-2-2-③】 快適な観劇環境の形成 [現代舞台芸術の公演]					【評定】			
【法人の達成すべき計画】 (5) 快適な観劇環境の形成 [現代舞台芸術の公演] 観客本位の快適な環境の形成のため、以下のとおりサービスの向上に努め、来場者等の満足度の向上を図る。 ア 高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観劇環境を提供するため、動線や施設設備の工夫、表示類の整備、英語等主要外国語による案内・解説等の充実、売店やレストラン等におけるサービスの向上を図る。 イ インターネットによる入場券販売の充実等により、観客の利用形態に応じた利便性の高い多様な販売方法を提供する ウ 公演内容等の理解を促進するため、公演内容に応じて解説書を作成するとともに、音声同時解説や字幕表示などのサービスを積極的に提供する。また、鑑賞団体等に対し、観劇にあわせた事前の公演内容の説明会や施設の見学会を適宜実施する。 エ 観客等の要望、利用実態等を把握するため、劇場モニター制度の導入を検討する。					A			
					H20	H21	H22	H23
					A	A	A	A
					実績報告書等 参照箇所			
					業務実績報告書 127頁～140頁			
【インプット指標】								
(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24			
決算額(百万円)	2,100	2,409	3,787	1,219	1,496			
従事人員数(人)	7	7	7	6	4			
1) 決算額は、公演附帯費(プログラム作成費、友の会事務費、観客勧誘事務費、劇場関係費)、新国立劇場維持管理費、情報センター維持管理費、共同利用施設維持管理費、舞台美術センター維持管理費、施設整備費(交付金)、施設整備費(補助金)を計上している。 2) 従事人員数は、新国立劇場・おきなわ部管理課新国立劇場系の常勤職員の人数を計上している。その際、役員及びその他の職員は勘案していない。								
評価基準(年度計画及び評価の視点)		実績				分析・評価		
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (5) 快適な観劇環境の形成 ア 利用者の意見等を踏まえ、老朽化した劇場内備品の更新や新国立劇場内エスカレーターの設置等観客用設備の整備を行うとともに、売店・レストラン等におけるサービスの充実や観劇時のマナーの呼びかけを行い、利用者にとって安全で快適な観劇環境を提供したか。 また、外国人利用者については、英文等パンフレットの配布など各種情報の提供に努め、利用環境の整備を進めたか。 イ インターネット・チケット販売、		2-③ 快適な観劇環境の形成 <1> 観劇環境整備、外国人利用者への対応 1. 設備等の環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年に引き続き甲州街道、青梅街道及び新宿駅周辺の歩行者用表示板等へ案内標識を掲出した。新国立劇場は、都市計画法に定める初台淀橋街区に位置し同街区内の東京オペラシティビル(株)と共に各施設案内誘導サインを掲出しているが、劇場等の案内誘導をより効果的にできるよう改善した。また街区内のバリアフリー表示標識を追加掲出した。 ・ オペラ劇場ホワイエ他の木製ベンチ及び共通ロビーの木壁は、長年の利用による塗装の剥がれや傷が多く発生し美観を損ねる状況となっていたため、計画的に補修を行っており、今年度もメインエントランス木扉の塗装補修を実施した。 ・ 2012/2013シーズンのオープニングに際し、オペラ劇場クローク前より2階プロムナードまでレッドカーペットを敷設した。オペラ劇場ホワイエには、簡易組立式の小型のバナーをオペラ劇場もぎり等、状況に応じて各所に設置し、オープニングらしい豪華で華やかな雰囲気を出した。 ・ 2012/2013シーズンの開幕公演が、オペラ「ピーター・グライムズ」、バレエ「シルヴィア」、演劇「リチャード三世」と、3部門とも英国ゆかりの作品となったことに関連して、10月のシーズンオープ 				<ul style="list-style-type: none"> ・ 新国立劇場はエスカレーターの設置や、託児サービスの充実、年配者や体の不自由な方への配慮など、観劇の利便性が向上している。 ・ バックステージツアーは、劇場への関心を深めるためにも、さらに回数を増やし、宣伝に努めてほしい。 ・ 劇場内のアナウンスについては、観客が芸術を楽しめるよう、状況に応じてより適切な対応に努められたい。 ・ 今後、バレエ公演における字幕表示 		

<p>電話予約など観客の利用形態に応じた多様な販売方法を提供し、販売の促進を図ったか。また、インターネット・チケット販売において、安定的なサービスの提供に努めるとともに、引き続き機能の向上を図ったか。</p> <p>ウ 公演内容等の理解を促進するため、以下のサービス等を提供したか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 解説書を作成するとともに、内容の充実を図ったか。 ・ 音声同時解説とともに、能楽堂の座席字幕装置をはじめとする字幕表示を積極的に活用したか。 ・ 鑑賞団体の求めに応じて積極的に公演内容の事前説明を行うとともに、学生等の施設見学を受け入れたか。 <p>エ ホームページ、ご意見箱等を通じて寄せられた観客等の意見・要望について迅速な対応を図るとともに、対応状況の把握・管理、職員への周知を行い、サービスの向上への活用に努めたか。</p>	<p>ニングに合わせ、英国の公的な国際文化機関であるブリティッシュ・カウンシルとの共催により、英国をテーマに舞台芸術の普及を図る企画「新国立劇場・英国舞台芸術フェスティバル 2012」を劇場を挙げて開催した。その一環として、同フェスティバルに関連した装飾を劇場内に施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オペラ劇場のオペラ、バレエ公演に合わせ、来場者のアメニティ向上を目的として、劇場共通ロビーに演目をイメージした大型の装飾花「ウエルカム・フラワー」を昨年度に引き続き飾った。2012/2013シーズンのオープニングには草月流家元勅使河原茜氏の協力も得て、その他の装飾ともあまって、豪華で華やかなウエルカム・フラワーとなった。また池の上部のテラス部分にテーブルとベンチを仮設し、テラス・カフェとしての利用に供し、好評を博した。 ・ オペラ劇場へのアクセスはオペラ劇場クローク前の階段等を利用してきたが、バリアフリー対策や観劇者の利便性を向上させるため、エスカレーターを新たに設置した。 <p>2. 観客サービスの充実</p> <p>①売店、レストランにおけるサービスの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 売店について、オペラ、バレエ、演劇の公演毎に異なる品揃えとし、主力商品を中心に広い客層に訴えることができるよう心がけた。 ・ 昨年度に引き続き、公演オリジナルグッズとして T シャツやチョコレートを製作した。定番商品として安定した人気を獲得している。 ・ 昨年度に引き続き行っている小劇場・中劇場の演劇公演での販売は、まだ売上が少なく採算的には厳しいが劇場のにぎわいを演出することには貢献できた。 ・ インターネット販売も推し進めたことで、プログラムや DVD などについて遠方の観客への販売を伸ばすことができた。 ・ ホワイエでのブッフェは、毎公演、彩りの異なるプレートメニューを提供し、スイーツ類も多種にわたっているが、さらに大幅なメニュー変更を行った。2011/2012 シーズンから、オペラやバレエの夜公演の際、休憩時間にオペラ劇場 2 階上手側ホワイエで飲み物と軽食をバイキング形式で楽しめるサービス「パレスサロン」を開始し、好評を得ている。 <p>②その他の観客サービスの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キッズルーム「ドレミ」において、0 歳から 12 歳までの児童を対象に、主催公演のうち指定日に、託児サービスを実施した。(実施:118 公演 83 日、利用者数 428 人) ・ 昨年度に引続き、平成 24 年度もオペラパレスにおけるオペラ・バレエ公演日の開場時に、劇場 1 階メインエントランス中央に、インフォメーションカウンターを設置し、案内業務の強化を図るとともに、車椅子の観客や足の不自由な観客を客席エリアに直通的エレベーターで案内するサービスを実施した。 ・ 新国立劇場は、身体障害者補助犬法に基づき、補助犬を伴って利用できることを周知するため、昨年度に引き続き「ステッカー」をインフォメーションカウンターほか利用者の目につきやすい所に設置して周知を徹底した。 <p>3. 安全で快適な環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模災害時における公共施設としての社会的責任を果たすため、観劇者を含め、相当数の帰宅困難者をカバーできる飲料水を追加備蓄した。 ・ 東日本大震災を踏まえ、現状に応じた詳細なマニュアルを整備し、非常時の観客避難誘導対策を再度確認した上で、公演本番時には常に緊張感を持った対応に努めた。 	<p>の活用の検討が望まれる。</p>
--	---	---------------------

- ・ 職員、委託業者など全職域が参加する新国立劇場消防総合訓練を11月に実施した。

4. 外国人利用者への対応

- ・ ホームページにおいて、英語での施設案内・公演案内・劇場周辺地図等を掲出し、外国人利用者の利便の向上を図っている。
- ・ ホームページに英語での施設案内、公演案内、劇場周辺地図等を掲出した。
- ・ 公演プログラムに英文による物語解説を掲載した(一部除く)。
- ・ 館内の劇場等への行き先を示す案内表示に、英文を併記した。
- ・ 英語での対応ができる劇場案内スタッフを配置した。
- ・ 劇場案内パンフレットの英語版を作成し、劇場の活動に対する理解を深めてもらうために活用した。
- ・ シーズンガイドの英語版を作成し、広く公演概要を周知した。
- ・ 火災等の非常放送は、英語放送を入れるようにしており、秋の自衛消防総合訓練でも英語放送を入れて訓練を実施し、非常時の対応に備えた。

<2>インターネット・チケット販売の活用

- ・ 新国立劇場のインターネット・チケット販売では、オペラ劇場公演に続いて 24 年度には中劇場公演でも利用者が直接希望の座席を選択できる機能を導入した。購入者は、①自動選択、②ブロック内自動選択、③座席任意選択のいずれかの方法を選んで購入できる。

<3>解説書の作成、字幕表示・音声同時解説の活用、公演説明会・施設見学等の実施

1. 解説書の作成

- ・ 新国立劇場では、すべての自主公演について公演解説書(プログラム)を作成した。
- ・ また、新国立劇場では、既存の日本語訳が未出版のオペラ「ピーター・グライムズ」について、リブレット対訳を上演に合わせて新たに作成した。

2. 字幕表示・音声同時解説の活用

(1) 字幕表示の実施

ジャンル	実施公演数	内 訳
オペラ公演	11 公演	オペラ 10 公演、高校生のためのオペラ鑑賞教室 1 公演

3. 公演説明会・施設見学等の実施

各館において、鑑賞団体等に対する公演説明会、施設見学の受入れ、バックステージツアーを実施し、上演演目への理解や劇場施設への親近感の醸成に努めた。

(1) 公演説明会の実施

区 分	件 数	参加人数
新国立劇場	13 件	4,046 人

(2) 施設見学の実施

区 分	件 数	参加人数
-----	-----	------

新国立劇場	16件	333人
-------	-----	------

(3)バックステージツアーの実施

区 分	件 数	参加人数
新国立劇場	17件	517人

<4>意見・要望等の把握と対応

1. 意見・要望等への対応体制

- ・ ホームページに「御意見欄」を設置
新国立劇場ホームページ 184件

2. 意見・要望等への対応状況

- ・ ほぼ全演目でアンケート調査日を設定し、入場時にキャスト表とともにアンケート用紙を希望者に配布、終演後に粗品と引換に回収する形で実施した。アンケート調査日以外においても、劇場各所にアンケート用紙を設置し、自由に御意見を発言していただける態勢を整えている。
- ・ アンケート結果については、公演制作の参考にすべく関係部署間で内容を共有した。また、来場者アンケートに記載されたお客様の声のうち、掲載を許可されたコメントについて、ホームページにアップした。
- ・ いただいた意見・要望については必要な対応を行い、提供するサービスの質の向上に努めた。劇場とボックスオフィスにて聴取した御意見については、委託業者とともに行う月例のミーティングにて、対応を行った。アンケートやホームページの御意見箱等を通じて寄せられた御意見については、即応を要する御意見に優先的に対応する一方、それ以外については傾向別にとりまとめて検証の上、対応した。

【(細目)1-2-2-④】	広報・営業活動の充実[現代舞台芸術の公演]	【評定】	A
----------------------	------------------------------	-------------	---

【法人の達成すべき計画】
(6) 広報・営業活動の充実 [現代舞台芸術の公演]
より多くの人々が幅広い分野の公演を鑑賞することを目標として、以下の取組みにより一層効果的な広報・営業活動を展開する。
ア 公演内容に応じた効果的な宣伝活動を実施する。また、伝統芸能、現代舞台芸術についての国民の理解促進、情報入手等に寄与し、振興会の事業について周知を図るため、広報誌を定期的に発行するとともに、英語を含むホームページ・メールマガジン等による情報提供を充実する。ホームページについては中期目標期間のアクセス件数を前中期目標期間の実績以上とする。
イ 年間の公演を通して購入できるシーズンシート、セット券等の拡充など鑑賞者の需要を的確にとらえた営業活動を展開する。
ウ 会員組織において、会報による定期的な情報提供、入場券販売サービス、会員向け催事の開催等により観劇機会の増加を図る。また、会員に対しアンケート調査を適宜実施し、サービスの向上を図る。なお、会員数については、前中期目標期間の実績以上とする。

H20	H21	H22	H23
A	A	B	A

実績報告書等 参照箇所
業務実績報告書 141 頁～155 頁

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24
決算額(百万円)	152	132	159	121	120
従事人員数(人)	7	7	7	6	4

1) 決算額は、公演附帯費(友の会事務費、宣伝諸費、特別宣伝費)を計上している。
2) 従事人員数は、新国立劇場・おきなわ部管理課新国立劇場系の常勤職員の人数を計上している。
その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

評価基準(年度計画及び評価の視点)	実績	分析・評価
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (6) 広報・営業活動の充実 ア 効果的な広報・営業活動の展開 a. ホームページにおける公演情報、行事情報等の早期掲載及び内容の充実に努めたか。またアクセス動向等を分析して利用状況を把握し、より効果的なホームページ運用に努めたか。メールマガジンの記事内容等を見直し、読者数増や集客効果の向上を図ったか。 ・ 新国立劇場ホームページの年間アクセス目標：1,900,000 件 b. 次のとおり広報誌を定期的に	<1>効果的な広報・営業活動の展開 1. ホームページにおける情報の内容の充実、メールマガジンの配信、携帯電話での情報発信 (1) アクセス件数 新国立劇場ホームページの年間アクセス件数:3,578,251 件/目標 1,900,000 件(達成度 188.3%) ・ 新国立劇場ホームページのアクセス数をより増加させる方策として、公演情報の充実(特設サイト開設・動画の配信)を図った。 (2) ホームページの内容の充実、使いやすさの向上 ・ 新国立劇場ホームページ及びジ・アトレ会員向けページの両方の内容を充実させた。 ・ ホームページの利便性を高めるために、情報項目の整理を行い、デザイン改修を行った。 ・ より多くの最新情報を迅速に公開し、新国立劇場の活動に対する理解向上を図った。 ・ トップページの写真を、公演やイベントに関係あるものに適宜変更するとともに、スライドの使用や再演演目の紹介に過去の公演記録映像を配信する等、より視聴覚に訴えるデザインとした。 ・ 演目毎の特設サイトを作成し、より詳細な公演情報の提供に努めた。 ・ デジタルコンテンツ「新国立劇場オンラインツアー」の、演劇編(演劇のつくりかた)を作成し	・ ホームページのアクセス件数は、昨年度比約 530,000 件増と目標を大きく上回っており、高く評価できる。 ・ チラシや情報誌など各種の広報活動が非常にアトラクティブになった。職員の意識も向上していることが窺われる。 ・ ジ・アトレの会員数は目標に対し△234 名、達成度 97.5%であるが、対前年度比では+183 名である。 ・ アカデミックプランやアカデミック39の企画は評価したい。

<p>発行したか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」(毎月発行) <p>c. 公演内容に応じた効果的な宣伝活動を実施したか。</p> <p>d. シーズンシートやセット券等による販売を推進したか。</p> <p>e. 学校・旅行代理店・ホテル・独立行政法人国際観光振興機構等の担当者に向けた劇場説明会を実施する等連携を強化して、団体観劇の促進と外国からの旅行者を含めた鑑賞者の増加を図ったか。団体観劇のメールによる問い合わせを随時可能とするなど、新規顧客に対する営業を強化し、また、全職員が集客に対する意識を高め、知人や関係するコミュニティ等に対して積極的に団体観劇を勧誘する「おすすめキャンペーン」を引き続き実施したか。</p> <p>イ 会員組織の会員に対し、会報による情報提供、会員先行発売及び割引発売、催し物を実施するとともに、引き続き会員を募集し、観劇機会の一層の増加を図ったか。また、アンケート調査を適宜実施し、回答内容について検討の上、会員サービスの一層の充実を図ったか。</p> <p>d. クラブ・ジ・アトレ(新国立劇場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会報「ジ・アトレ」(毎月発行) ・会員向け催事:年1回程度 ・目標会員数:9,600人 	<p>た。新国立劇場演劇公演への一層の関心喚起、理解促進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・23年度に開設したバレエ団ブログに加え、24年度には演劇ツイッター、オペラフェイスブックを開始した。稽古の様子、公演準備の様子、チケット情報などを迅速かつ継続的に発信し、公演へのより一層の関心を喚起するとともに、ファン作りに努めた。 ・研修所ページへのアクセスをより分かりやすく工夫するとともに、研修風景の動画や最新の修了生の活躍状況など、より一層の情報提供に努めた。また、オペラ研修所ブログ、演劇研修所フェイスブックなどの新たな情報発信手段を用いて、研修の様子、研修公演準備の様子などを継続的に発信し、研修所の活動に対してより一層の理解促進を図った。 ・動画中継システム(USTREAM)を用いて、トークイベントなどの一般観客向け企画や、報道関係者への公演制作発表をインターネット上で生中継した。これにより新国立劇場の活動のより一層の周知を図った。 ・報道関係者及び一般利用者の利便性を高めるために公演情報をPDFでホームページに掲載した。 ・ニュースリリースをホームページに掲載し、より一層の情報公開に努めた。 <p>(3) メールマガジンの配信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新国立劇場ではeメールクラブ会員(9,323名)を対象に、公演情報やイベントなどの新着情報、お得なご案内、ゲネプロ後(公演直前)の公演詳細、またキャスト交代の場合のお知らせなどを随時配信した。 <p>2. 広報誌の発行</p> <p>一般向け広報誌として、新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」を毎月発行したほか、会員組織の会員に対し会報による情報提供を行った。</p> <p>また、以下の概要等を作成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新国立劇場 平成23年度年報」(24年9月作成) <p>3. 公演内容に応じた効果的な宣伝、営業活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ・ポスター、ホームページ等による通常の広報・営業活動に加え、公演内容に応じ特設サイトの設置や国立劇場でのチケット販促キャンペーン等を行った。 ・インターネットで現代舞台芸術に関するキーワードを入力すると新国立劇場の広告が自動的に表示される「検索キーワード連動型広告」という新しいアプローチを行い、より精密な営業活動を行った。 ・空席のある場合に限り事前に5,000円(オペラ以外のジャンルは半額)で予約できる25歳以下の若年層を対象とした「アカデミックプラン」を引き続き実施するとともに、平成25年1月からは26歳以上39歳以下の方を対象にした「アカデミック39」を開設した。(アカデミック39は一般:11,000円、会員:10,000円)登録者数は3月末日現在12,050人(うち「アカデミック39」は843人)で3,290人以上の前年比増加となった。新規顧客層の拡大に対して大変有効な手法となった。 ・開場15周年に当たる平成24年度、2012/2013シーズンの開幕公演として、オペラ「ピーター・グライムズ」、バレエ「シルヴィア」、演劇「リチャード三世」と、3部門とも英国ゆかりの作品を上演。このことから、英国の公的な国際文化機関であるブリティッシュ・カウンシルとの共催により、英国をテーマに舞台芸術の普及を図る企画「新国立劇場・英国舞台芸術フェスティバル2012」を劇場を挙げて開催した。期間中は特設サイトを開設して随時情報を発信、同フェスティバルの関連企画として、英 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、再演のチケットをよりリーズナブルな価格にし、学生のための格安チケット、途中からの入場割引など、より一層の創意工夫が望まれる。
---	---	---

- 国大使館で記者発表を行うとともに、その模様を動画中継システム(USTREAM)により配信した。
- ・ 2013年がヴェルディとワーグナーという2大作曲家の生誕200年にあたることから、これを機にクラシック音楽のさらなる発展を図るため、国内外有数のオペラ団、オーケストラ等が一同に会し、1年間にわたって共同プロモーションを行う「2013ヴェルディ&ワーグナー生誕200年祭」に参加した。共同でのチラシ作成、Facebook開設のほか、同祭の関連企画として、新国立劇場オペラ劇場ホワイエにおいて同祭の「キックオフ記者発表」を行うとともに、その模様を動画中継システム(USTREAM)により配信した。
 - ・ 平成25年1月14日に報道関係者、評論家に対し「2013/2014シーズンラインアップ発表会」を実施した。
 - ・ 制作発表やフォトコール(写真撮影会)を行い、より一層の情報提供に努めた。
 - 演劇「サロメ」フォトコール(5/29)
 - 演劇「リチャード三世」制作発表(7/17)、
 - 演劇「With 一つながる演劇ー」(平成25年度公演)3作品合同制作発表(3/26)
 - ・ 演目別の広報については、様々な角度からアピールする方法を検討し、きめ細かいマスコミ対応による記事掲載の促進や、特設サイトにおける動画の活用をはじめとしたコンテンツの充実、eメールクラブ会員への公演関連情報や芸術監督メッセージの配信などを行った。
 - ・ 演劇公演では演目ごとにブログを開設し、チケット情報、稽古の様子、公演準備の様子、公演の背景に関する解説や考察などの充実したコンテンツを掲載。観客向けのより詳細な情報を随時発信した。
 - ・ さらに、24年度には新しく新国立劇場オペラフェイスブックアカウント及び新国立劇場演劇ツイッターアカウントを開設したほか、23年度に引き続き、新国立劇場バレエ団オフィシャルブログを運用した。公演へのより一層の関心を喚起するとともにファン作りに努め、既存の観客にも好評を博するとともに、新規観客の開拓においても効果を期待されている。
 - ・ 演劇公演では、内容に関連のある他ジャンルの主催公演と連携し、当該公演のチケット購入者に指定の演劇公演のプログラム引換券を進呈するキャンペーンを実施した。
 - ・ テレビ局との共催により、コマーシャル映像及び音声を作成し、テレビ・ラジオ・インターネットで放送するなど、大規模かつ広範なプロモーションを展開した。
4. シーズンシートやセット券等の拡充
- ・ 新国立劇場では、シーズンセット券の購入者は最重要顧客であるという位置づけの下に、会員に対し、会報誌「ジ・アトレ」、パンフレット及びジ・アトレ会員向けホームページ等を通じて、オペラ、バレエ、現代舞踊の2012/2013シーズンセット券の販売を行った。また演劇においても、「海外戯曲 春から夏へ」(「負傷者16人」、「サロメ」、「温室」の3公演)、「それぞれの魅力ー秋から冬へー」(「リチャード三世」、「るつぼ」、「音のいない世界」で3公演)と題して、芸術監督が企画するテーマに沿った演目をセットで組み合わせ、特別割引通し券として販売した。作品へのより深い興味と理解を観客に提案でき、売上向上につながった。
5. 団体鑑賞の促進、外国からの旅行者を含めた鑑賞者の増加、おすすめキャンペーンの実施
- ・ 「トスカ」、「セビリアの理髪師」、「アイーダ」のように特にポピュラーな演目では、一般観客や団体観客に重点的な営業を行うことによって、観客層を広げることができた。
 - ・ 集客が困難なゴールデンウィーク中に開催された「白鳥の湖」のほか、「ジゼル」のように特にポピュラーな演目や、「シンデレラ」のように家族向けを意識した演目では、一般観客やバレエ教室・各

種舞踊教室・学校・児童養護施設などを含む団体観客に重点的な営業を行うことによって、観客層を広げることができた。

- ・ 演劇鑑賞団体やカード会社、生活協同組合など再販組織に対しての団体販売を行うとともに、出演者・作家・演出家のファンクラブや関連分野の大学教員、常連客等に対しても積極的に営業活動を行った。
- ・ アカデミックプランの発動に際し、演劇俳優養成所に所属する25歳以下の方を対象に団体として取りまとめて受け付けるなどの施策を行った。
- ・ 公演内容に関連のある施設や団体から各種参考資料を借り受け、公演のPRにおいて活用したことに加え、団体でのチケット購入やチラシ配布の協力を得た。

<2>会員組織による観劇機会の増加

4. 新国立劇場クラブ・ジ・アトレ

(1) 会員向けサービスの充実

- ・ 郵送申込、先行予約、割引販売
10%割引の会員優先販売(郵送申込と電話、窓口およびインターネット申込の2つの期間)を会員サービスとして実施した。一般発売後は5%割引を実施した。
 - ・ ポイントアップサービス
新国立劇場の会員であることステータスを上げるとともに、サービス向上を図るため、購入実績に応じてポイントを付与し、点数に応じて、プログラム引換券、ブッフェクーポン、シアターショップクーポン、チケットエクステンジ(同公演別日程でのチケット交換)、アドバンストリザーブ(会員先行よりさらに早い電話予約)、舞台写真、ゲネプロ見学、公演招待、「マエストロ」アフターシアターディナー券などを提供した。
 - ・ 会員向け Web サイトの運営
会員がクラブ・ジ・アトレのサービスや手続きについて、詳細を容易に把握するための総合的な情報提供の場として「チケットとクラブ・ジ・アトレ Web サイト」を運営した。
また、会員限定で、Web サイト上で会報誌を読むことのできる仕組みを新たに導入した。
 - ・ ゴールドカードのサービス拡大
アトレ VISA ゴールド会員への便宜拡大を目指し、通常会員よりさらに早くチケット予約ができるアドバンストリザーブを年間5回に、またチケットの日程変更ができるチケットエクステンジサービスを年間5回追加導入した。
 - ・ 会員増加対策
セット券販売に伴う入会キャンペーン、三井住友カードとの提携による入会促進キャンペーン(10~11月実施、抽選で計140名のゲネプロ招待他)を行った。また、インターネットでの入会手続きが可能となり、インターネット入会スタートキャンペーンを実施した(2月~3月)。
- #### (2) 会報の発行(計画:毎月発行)
- 新国立劇場月刊会報誌「ジ・アトレ」を毎月発行した。(計12回)
- #### (3) 会員向け催事(計画:1回程度実施)
- 新制作オペラ、レパートリー作品のバレエについて、会員から希望を募り、入会キャンペーンの一環として抽選でゲネプロ見学会を開催した(オペラ3演目 参加者120名 バレエ4演目 参加者96名)。

2011/2012 シーズンシート購入者及びシーズン・セット券購入者を対象に、6月16日(土)に11/12 シーズンオペラ・エンディング・パーティ、7月1日(日)に11/12 シーズンバレエ・エンディング・パーティを、いずれもレストラン・マエストロにて開催した。出演者・ダンサーとの懇談、写真撮影を行った。

(4) アンケート調査

会員の興味・関心やその消費者特性を把握するべく、アンケート調査を実施している。その分析結果は今後の営業施策に役立てていく。

(5) 会員数

在籍者数(対前年度)	目標会員数	利用枚数
9,366人(+183人)	9,000人	68,842枚

《数値目標の達成状況》

【ホームページへのアクセス状況】

新国立劇場ホームページの年間アクセス件数:3,578,251件/目標1,900,000件(達成度125.9%)

【会員数】

クラブ・ジ・アトレ:9,366人/目標9,600人(達成度97.5%)

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

・ 新国立劇場の会報誌「ジ・アトレ」は、公演情報の早期の掲載を行い、また、公演情報だけでなく、イベント報告、新国立劇場バレエ団ダンサーの紹介(毎月)など、多彩な劇場の取り組みも伝えることができた。

【(小項目)1-2-3】	青少年等を対象とした公演	【評定】			
		A			
		H20	H21	H22	H23
		A	A	A	A

【法人の達成すべき計画】
(3) 青少年等を対象とした公演
ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、上記(1)の伝統芸能の公開の中で青少年等を対象とした鑑賞教室等を年間 8 公演程度実施する。
イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、上記(2)の現代舞台芸術の公演の中で青少年等を対象とした鑑賞教室等を年間 3 公演程度実施する。
ウ 実施に際しては、日頃伝統芸能及び現代舞台芸術に触れる機会の少ない社会人などに配慮した企画等の実施に努めるとともに、各鑑賞事業の連携協力を強化するなど、その充実を図る。

実績報告書等 参照箇所
業務実績報告書 71 頁～75 頁, 113 頁～116 頁

	H20	H21	H22	H23	H24
伝統芸能分野	A	A	A	A	A
現代舞台芸術分野	A	A	A	A	A

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24
伝統芸能分野 決算額(百万円)	収入 239 支出 174	収入 261 支出 202	収入 262 支出 180	収入 242 支出 218	収入 256 支出 188
伝統芸能分野 従事人員数(人)	24	24	24	25	24
現代舞台芸術分野 決算額(百万円)	収入 36 支出 111	収入 46 支出 146	収入 43 支出 111	収入 38 支出 172	収入 36 支出 176
現代舞台芸術分野 従事人員数(人)	7	7	7	6	4

- 伝統芸能分野
1) 決算額は、
・振興会: 入場料収入及び公演費
・おきなわ財団: 入場料収入(財団自己財源)及び公演費(財団自己財源)を計上している。
2) 従事人員数は、各館の制作担当常勤職員及び国立劇場おきなわ業務管理職員の人数を計上している。
・歌舞伎(第1制作課)
・文楽(第2制作課、文楽劇場企画制作課企画制作係)
・能楽(能楽堂企画制作課企画制作係)
・組踊等沖縄伝統芸能(新国立劇場・おきなわ部管理課国立劇場おきなわ係)

その際、役員及びその他の職員は勘案していない。
 ○現代舞台芸術分野
 1)決算額は、入場料収入及び普及公演費を計上している。
 2)従事人員数は、新国立劇場部の常勤職員の人数を計上している。
 その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

評価基準(年度計画及び評価の視点)	実績	分析・評価																																																																																																																	
<p>2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演</p> <p>(3) 青少年等を対象とした公演</p> <p>ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、青少年を対象とした鑑賞教室等の公演を平成 24 年度年度計画[別表 1]のとおり実施したか。</p> <p>イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、青少年を対象とした鑑賞教室等の公演を平成 24 年度年度計画[別表 2]のとおり実施したか。</p> <p>ウ 新たな観客層の育成を図るため、主催公演のなかで平成 24 年度年度計画[別表 3]のとおり社会人や親子を対象とした企画等を実施したか。</p> <p>エ 実施に当たっては、各鑑賞事業の連携協力を強化するなど充実に努めたか。</p> <p>[平成 24 年度年度計画別表 1 の概要] 青少年を対象とした鑑賞教室等の公演(6 公演) (歌舞伎 2 公演、文楽 2 公演、能楽 1 公演、組踊等沖縄伝統芸能 1 公演)</p> <p>[平成 24 年度年度計画別表 2 の概要] 青少年等を対象とした鑑賞教室等の公演(2 公演) (オペラ 1 公演、バレエ 1 公演)</p> <p>[平成 24 年度年度計画別表 3 の概要] 社会人や親子を対象とした企画等(14 公演)</p>	<p>伝統芸能分野</p> <p>1. 公演実績</p> <p>(1) 青少年を対象とした鑑賞教室等の公演</p> <table border="1" data-bbox="600 395 1742 1347"> <thead> <tr> <th>公演名</th> <th>劇場</th> <th>期間</th> <th>区分</th> <th>回数</th> <th>日数</th> <th>入場者数</th> <th>入場率</th> <th>総席数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">6 月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、 「平家女護島 俊寛」</td> <td rowspan="4">本館 大劇場</td> <td rowspan="2">6/2 (土) ～24 (日)</td> <td>実績</td> <td>46 回</td> <td>23 日</td> <td>49,927 人</td> <td>(71.4%)</td> <td>69,920 人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>46 回</td> <td>23 日</td> <td>51,500 人</td> <td>(73.7%)</td> <td>69,920 人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">7 月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、 「歌舞伎十八番の内 毛抜」</td> <td rowspan="2">7/3 (火) ～24 (火)</td> <td>実績</td> <td>44 回</td> <td>22 日</td> <td>65,077 人</td> <td>(97.3%)</td> <td>66,880 人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>44 回</td> <td>22 日</td> <td>54,000 人</td> <td>(80.7%)</td> <td>66,880 人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">12 月文楽鑑賞教室 「靉猿」「解説文楽の魅力」 「恋女房染分手綱」</td> <td rowspan="2">本館 小劇場</td> <td rowspan="2">12/4 (火) ～16 (日)</td> <td>実績</td> <td>24 回</td> <td>13 日</td> <td>12,933 人</td> <td>(97.4%)</td> <td>13,272 人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>24 回</td> <td>13 日</td> <td>13,140 人</td> <td>(99.0%)</td> <td>13,272 人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">6 月文楽鑑賞教室 「伊達娘恋緋鹿子」、 解説「菅原伝授手習鑑」</td> <td rowspan="2">文楽 劇場</td> <td rowspan="2">6/8 (金) ～21 (木)</td> <td>実績</td> <td>28 回</td> <td>14 日</td> <td>17,323 人</td> <td>(84.6%)</td> <td>20,468 人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>28 回</td> <td>14 日</td> <td>18,000 人</td> <td>(87.9%)</td> <td>20,468 人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">6 月能楽鑑賞教室 解説「能楽のたのしみ」 狂言「柿山伏」・能「葵 上」</td> <td rowspan="2">能楽堂</td> <td rowspan="2">6/18 (月) ～22 (金)</td> <td>実績</td> <td>10 回</td> <td>5 日</td> <td>5,965 人</td> <td>(95.1%)</td> <td>6,270 人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>10 回</td> <td>5 日</td> <td>5,900 人</td> <td>(94.1%)</td> <td>6,270 人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">「生徒のための組踊鑑 賞教室」</td> <td rowspan="2">国立劇場 おきなわ 大劇場</td> <td rowspan="2">10/25(木) ～26(金) 11/15(木) ～16(金)</td> <td>実績</td> <td>8 回</td> <td>4 日</td> <td>3,516 人</td> <td>(76.3%)</td> <td>4,611 人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>8 回</td> <td>4 日</td> <td>3,236 人</td> <td>(70.0%)</td> <td>4,624 人</td> </tr> <tr> <td colspan="3" rowspan="2">合計 6 公演</td> <td>実績</td> <td>160 回</td> <td>81 日</td> <td>154,741 人</td> <td>(85.3%)</td> <td>181,421 人</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>160 回</td> <td>81 日</td> <td>145,776 人</td> <td>(80.3%)</td> <td>181,431 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 社会人や親子を対象とした企画等 (本館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6 月歌舞伎鑑賞教室「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」(6 月 15 日・22 日、計 2 回) ・ 7 月歌舞伎鑑賞教室「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」(7 月 18 日・20 日、計 2 回) 	公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	6 月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、 「平家女護島 俊寛」	本館 大劇場	6/2 (土) ～24 (日)	実績	46 回	23 日	49,927 人	(71.4%)	69,920 人	計画	46 回	23 日	51,500 人	(73.7%)	69,920 人	7 月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、 「歌舞伎十八番の内 毛抜」	7/3 (火) ～24 (火)	実績	44 回	22 日	65,077 人	(97.3%)	66,880 人	計画	44 回	22 日	54,000 人	(80.7%)	66,880 人	12 月文楽鑑賞教室 「靉猿」「解説文楽の魅力」 「恋女房染分手綱」	本館 小劇場	12/4 (火) ～16 (日)	実績	24 回	13 日	12,933 人	(97.4%)	13,272 人	計画	24 回	13 日	13,140 人	(99.0%)	13,272 人	6 月文楽鑑賞教室 「伊達娘恋緋鹿子」、 解説「菅原伝授手習鑑」	文楽 劇場	6/8 (金) ～21 (木)	実績	28 回	14 日	17,323 人	(84.6%)	20,468 人	計画	28 回	14 日	18,000 人	(87.9%)	20,468 人	6 月能楽鑑賞教室 解説「能楽のたのしみ」 狂言「柿山伏」・能「葵 上」	能楽堂	6/18 (月) ～22 (金)	実績	10 回	5 日	5,965 人	(95.1%)	6,270 人	計画	10 回	5 日	5,900 人	(94.1%)	6,270 人	「生徒のための組踊鑑 賞教室」	国立劇場 おきなわ 大劇場	10/25(木) ～26(金) 11/15(木) ～16(金)	実績	8 回	4 日	3,516 人	(76.3%)	4,611 人	計画	8 回	4 日	3,236 人	(70.0%)	4,624 人	合計 6 公演			実績	160 回	81 日	154,741 人	(85.3%)	181,421 人	計画	160 回	81 日	145,776 人	(80.3%)	181,431 人	<p>・ 伝統芸能、現代舞台芸術ともに、様々な企画の実施により、入場者数は昨年度を上回っており、目標を達成している。</p> <p>・ アンケート調査では、全ての劇場における公演で「概ね満足」と回答した割合が 80%以上であり、評価できる。</p> <p>・ 今後は、青少年向けとはいえレベルを落とさず、できるだけ主催公演に近いものを提供することも検討すべきである。</p> <p>・ 現代演劇、洋舞、日舞などについても、裾野を広げるために青少年等対象とした公演の実施が望まれる。</p> <p>【伝統芸能分野】</p> <p>・ 公演は計画どおりに実施され、入場者数は目標を達成した。</p> <p>・ アンケート調査では、全ての公演で「概ね満足」と回答した割合が 80%以上であり、評価できる。</p> <p>・ 鑑賞教室などは、これまでの積み重ねもあり、成果が挙がっている。</p>
公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数																																																																																																											
6 月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、 「平家女護島 俊寛」	本館 大劇場	6/2 (土) ～24 (日)	実績	46 回	23 日	49,927 人	(71.4%)	69,920 人																																																																																																											
			計画	46 回	23 日	51,500 人	(73.7%)	69,920 人																																																																																																											
		7 月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、 「歌舞伎十八番の内 毛抜」	7/3 (火) ～24 (火)	実績	44 回	22 日	65,077 人	(97.3%)	66,880 人																																																																																																										
				計画	44 回	22 日	54,000 人	(80.7%)	66,880 人																																																																																																										
12 月文楽鑑賞教室 「靉猿」「解説文楽の魅力」 「恋女房染分手綱」	本館 小劇場	12/4 (火) ～16 (日)	実績	24 回	13 日	12,933 人	(97.4%)	13,272 人																																																																																																											
			計画	24 回	13 日	13,140 人	(99.0%)	13,272 人																																																																																																											
6 月文楽鑑賞教室 「伊達娘恋緋鹿子」、 解説「菅原伝授手習鑑」	文楽 劇場	6/8 (金) ～21 (木)	実績	28 回	14 日	17,323 人	(84.6%)	20,468 人																																																																																																											
			計画	28 回	14 日	18,000 人	(87.9%)	20,468 人																																																																																																											
6 月能楽鑑賞教室 解説「能楽のたのしみ」 狂言「柿山伏」・能「葵 上」	能楽堂	6/18 (月) ～22 (金)	実績	10 回	5 日	5,965 人	(95.1%)	6,270 人																																																																																																											
			計画	10 回	5 日	5,900 人	(94.1%)	6,270 人																																																																																																											
「生徒のための組踊鑑 賞教室」	国立劇場 おきなわ 大劇場	10/25(木) ～26(金) 11/15(木) ～16(金)	実績	8 回	4 日	3,516 人	(76.3%)	4,611 人																																																																																																											
			計画	8 回	4 日	3,236 人	(70.0%)	4,624 人																																																																																																											
合計 6 公演			実績	160 回	81 日	154,741 人	(85.3%)	181,421 人																																																																																																											
			計画	160 回	81 日	145,776 人	(80.3%)	181,431 人																																																																																																											

<p>(歌舞伎 3 公演、文楽 3 公演、舞踊・邦楽等 1 公演、大衆芸能 1 公演、能楽 3 公演、組踊等沖縄伝統芸能 2 公演、バレエ 1 公演)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7 月歌舞伎鑑賞教室「親子で楽しむ歌舞伎教室」(7 月 15 日、16 日、20 日～24 日、計 13 回)。 ・ 12 月文楽鑑賞教室「社会人のための文楽鑑賞教室」(12 月 7 日・14 日、計 2 回)。 (演芸場) ・ 7 月特別企画公演「親子で楽しむ演芸会」(7 月 28 日、1 回)。 (能楽堂) ・ 8 月企画公演「働く貴方に贈る」(8 月 24 日、1 回)。 ・ 8 月企画公演「夏休み親子で楽しむ能の会」(8 月 4 日、1 回)。 ・ 8 月企画公演「夏休み親子で楽しむ狂言の会」(8 月 11 日、1 回)。 (文楽劇場) ・ 6 月文楽鑑賞教室「社会人のための文楽入門」(6 月 11 日・20 日、計 2 回)。 ・ 夏休み文楽特別公演、第 1 部を親子劇場として実施(7 月 21 日～8 月 7 日、計 18 回)。 (国立劇場おきなわ) ・ 国立劇場おきなわ 6 月普及公演「社会人のための組踊鑑賞教室」(6 月 24 日、1 回)。 ・ 国立劇場おきなわ 8 月普及公演「親子のための組踊鑑賞教室」(8 月 11 日、1 回)。 <p>(3) 各鑑賞事業の連携協力の強化等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各館が行う親子を対象とした公演について、ホームページにそれぞれの親子企画を紹介するサイトを設置し、あわせて振興会トップページのバナーから誘導することにより対象者に狙いを絞った広報を行った。 <p>2. 営業・広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6 月歌舞伎鑑賞教室は中村橋之助の記者会見を行った。7 月歌舞伎鑑賞教室は片岡愛之助の記者会見及び、朝日新聞読者招待を行い周知に努めた。 ・ 本館では学校団体向けの鑑賞教室の公演案内を新しく作成し、内容を分かりやすくして充実を図った。また、担当教員を対象に下見見学会を行うなど関係者の理解を深め、参加校から受注を受ける等、一定の成果が得られた。 ・ 本館では中学・高校等の学校へ案内を送付して団体鑑賞を募るとともに、チラシ等により一般の観客にも周知し、学生以外の団体鑑賞も促した。 ・ 本館では都内及び近郊の日本語学校をターゲットとし、団体獲得につなげた。 ・ 文楽劇場では、とくにこれまで利用のなかった学校の先生方を対象に、鑑賞教室公演見学や内容説明を行った。また、「社会人のための文楽入門」の専用チラシを作成し、広報に努めた。 <p>3. 外部専門家等の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6 月歌舞伎鑑賞教室について、解説に歌舞伎俳優研修生を登場させ、若い観客にとって歌舞伎俳優が身近な存在であると感じさせたのは良かった。親しみやすい人物画を投影してストーリーを丁寧に説明していたのは分かりやすく、本編へのスムーズな導入になっていたと思う。芝喜松、芝のぶ等の研修生出身が活躍した。真の実力をつけてきた研修出身者をこういう機会に主な役にベテランとともに起用することで、彼らがワキを演じる時のよい参考になり、世間の人に研修生の存在もアピールできる。 ・ 7 月歌舞伎鑑賞教室について、解説「歌舞伎のみかた」は、今回もよく作り込まれた丁寧な解説で、初めての観客にも受け入れやすいものになっていたと思う。ことに化粧をしている姿を大きなスクリーンに映し出し、細かい部分まで見せるようにしたのは絶大なる効果がもたらされた。「毛拔」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文楽や組踊の鑑賞教室は青少年のうちから郷土の伝統芸能に触れる機会が増え、有意義な取り組みと評価できる。 <p>【現代舞台芸術分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公演は計画通りに実施され、入場者数は目標に対し約 2,300 人増となり、高く評価できる。 ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室、こどものためのバレエ劇場は好評を博しているが、よりレベルの高い公演が望まれる。 ・ 今後は、オペラ鑑賞教室についての演目の吟味、公演前の説明、ダイジェスト版の検討、バレエ劇場の全国展開など、より一層の充実が期待される。
---	---	--

は、ベテラン、中堅がいつもより多く出演したようだ。彼らと若手の競演だが、観劇初心者は、意外と両者の違いを感じとることがある。今回もごく僅かでもその味の違いを知った者がいたことを願う。若手もこういう機会を活かして大いに成長して欲しい。

- ・ 12 月文楽鑑賞教室について、鑑賞教室の演目として「靱猿」は文楽のみならず、日本伝統演劇の総合的な理解につながり、一方の『恋女房染分手綱』の「道中双六の段」「重の井子別れの段」は、家や奉公のしがらみなど江戸時代の武家社会の理解につながるよい選定である。

「また見に来たい」と思った聴衆のために、次回文楽公演の案内だけでなく、国立劇場での文楽公演月についての情報や大阪文楽劇場の案内などもプログラムにあるとよい。他のジャンルの鑑賞教室の予定(公演月)や伝統芸能情報館の案内などをプログラムに加えたり、過去のプログラムからの再掲でもよいのでエッセイ的なものなどを加えるなどすると、より親しみがわくのではないか。

- ・ 文楽劇場 6 月文楽鑑賞教室について 今回は技芸員による人形解説の場面で、舞台のスクリーンに人形の姿や構造の写真が大きく映し出された。後方席の観客も話の内容がより理解しやすくなって、大変よかったと思う。ただ、映し出されたのがすべて静止画だったので、舞台上の人形遣いの動きと人形の表情がリアルタイムの動画となって大写しになれば一層いいのでは、とも感じた。

- ・ 国立劇場おきなわで 20 年度から始まった鑑賞教室は、県内の小中高等学校等へ広く鑑賞案内を実施したところ認知度が上がり、集客が安定してきている。

4. アンケート調査

(本館)

- ・ 6 月歌舞伎鑑賞教室で実施(6 月 13 日 11:00 開演)
回答数 1,188 人(配布数 1,462 人、回収率 81.3%)。回答者の 84.9%が概ね満足と答えた(1,009 人)。
- ・ 7 月社会人のための歌舞伎鑑賞教室で実施(7 月 20 日 19:00 開演)
回答数 1,013 人(配布数 1,465 人、回収率 69.1%)。回答者の 85.6%が概ね満足と答えた(867 人)。
- ・ 12 月社会人のための文楽鑑賞教室で実施(12 月 7 日 18:30 開演)
回答数 400 人(配布数 515 人、回収率 77.7%)。回答者の 86.0%が概ね満足と答えた(344 人)。

(演芸場)

- ・ 7 月特別企画公演「親子で楽しむ演芸会」で実施。(7 月 28 日)
回答数 38 人(配布数 120 人、回収率 31.7%)。回答者の 97.4%が概ね満足と答えた(37 人)。

(能楽堂)

- ・ 「働く貴方に贈る」で実施(8 月 24 日)。
回答数 321 人(配布数 590 人、回収率 54.4%)。回答者の 82.9%が概ね満足と答えた(266 人)。

(文楽劇場)

- ・ 6 月社会人のための文楽入門で実施(6 月 20 日 18:30 開演)
回答数 365 人(配布数 513 人、回収率 71.2%)。回答者の 89.3%が概ね満足と答えた(326 人)。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 社会人のための組踊鑑賞教室で実施(6 月 24 日)。
回答数 210 人(配布数 300 人、回収率 70.0%)。回答者の 80.5%が概ね満足と答えた(169 人)。
- ・ 親子のための組踊鑑賞教室で実施(8 月 11 日)。

回答数 172 人(配布数 300 人、回収率 57.3%)。回答者の 82.6%が概ね満足と答えた(142 人)。

【特記事項】

- ・ 7 月歌舞伎鑑賞教室では、23 年度に引き続き国立劇場のマスコットキャラクター「くろごちゃん」が、解説「歌舞伎のみかた」に出演したほか、ロビー等においても観客サービスに努めた。親子で楽しむ歌舞伎教室では、くろごちゃんクイズや、たちいりハルコ氏のイラストを使用した記念撮影用ブースを設置するなど等して、親しみやすい国立劇場のイメージを発信するとともに観客サービスに努めた。
- ・ 6 月歌舞伎鑑賞教室、12 月文楽鑑賞教室、6 月社会人のための文楽入門、では、字幕表示装置により演奏に合わせて詞章等を表示し鑑賞の助けとした。
- ・ 能楽堂では、座席字幕装置を活用して、日本語(詞章)・英語の 2 チャンネル方式で字幕表示を実施した。「能楽鑑賞教室」では中・高生向けの解説を追加し、また「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では子どもにも分かり易い解説を追加して 3 チャンネル方式とし、観客層に合わせたきめ細かい字幕表示を実施し好評を得た。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 154,741 人／目標 145,776 人(達成度 106.1%)

現代舞台芸術分野

1. 公演実績

青少年を対象とした鑑賞教室等の公演(再掲)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
高校生のためのオペラ鑑賞教室「ラ・ボエーム」	オペラ劇場	7/12(木)～ 19(木)	実績	6回	6日	10,311人	(97.1%)	10,624人
			計画	6回	6日	9,000人	(84.7%)	10,620人
こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」	中劇場	7/27(金)～ 29(日)	実績	6回	3日	5,085人	(92.5%)	5,496人
			計画	6回	3日	4,100人	(74.6%)	5,496人
【鑑賞教室 合計】	2公演(計画:2公演)		実績	12回	9日	15,396人	(95.5%)	16,120人
			計画	12回	9日	13,100人	(81.3%)	16,120人

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、ジ・アトレ会報等により、公演の周知を図り、集客に努めた。
- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室については、前年度の 9 月に首都圏全域(東京、神奈川、埼玉、千葉の高等学校、茨城、群馬、山梨の一部の高等学校、および特別支援学校)約 1,300 校に募集要項を送付し、学校単位の受付を行った。
- ・ 「こどものためのバレエ劇場」については、朝日新聞のアスパラクラブ会員向けに特別販売を行

い、顧客層の拡大を図った。また、eメールクラブで、公演の様子などを登録者に伝え、さらなる集客に努めた。

3. 外部専門家等の意見

- ・（高校生のためのオペラ）鑑賞教室で《ラ・ボエーム》が取り上げられるのは初めてだったが、高校生にも理解しやすい内容で評判もよく、《蝶々夫人》《トスカ》とともにレパートリーとして上演してほしい。
- ・（高校生のためのオペラ鑑賞教室の）歌手たちは極めて丁寧に歌っていたし、指揮も手堅いものだった。第2幕の初め、幕の絵がそのまま現実の舞台に転じた瞬間には、周囲の高校生が息を飲んでひきこまれているのを、肌で感じた。
- ・（高校生のためのオペラ鑑賞教室は）起承転結が明解な物語とブッチーニの美しい音楽に引き込まれ、高校生たちも集中して鑑賞できた。何もかもが新鮮な体験だったようだ。
- ・（高校生のためのオペラ鑑賞教室は）今回、開演前の客席のざわめきがすぐに解消されたことには目を見張った。（アナウンス、指揮者登場、拍手へと）スムーズな流れが今後も続くよう、心から望みたい。第2幕の群衆シーンを代表格に、舞台効果を満喫させるステージとしては申し分ないものである。
- ・（高校生のためのオペラ鑑賞教室は）日本の劇場文化の、そしてオペラにとっての将来がかかっているともいえるこの事業を今後とも着実に続けていっていただきたいと思った。
- ・「こどものためのバレエ劇場」のような企画は非常に重要である。最近、地方の公共ホールや民間劇場においても類似の取組がなされているが、トップダンサーを起用してのこの贅沢なプロダクションは新国立劇場ならではのといえる。是非、今後も継続してほしい。

4. アンケート調査

全2公演で12回実施した。

有効回答数 3,151人（配布数 15,396人、回収率 20.5%）。回答者の90.1%が概ね満足と答えた（2,839人）。

【特記事項】

新国立劇場で開催する公演のほか、学校など現地や地方に出向いての現代舞台芸術の公演で、青少年等を対象としたものとしては、下記の公演を実施した。

(1)オペラ

○高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演「愛の妙薬」

芸術監督＝尾高忠明

作曲＝ガエターノ・ドニゼッティ

指揮＝城谷正博

演出＝チェーザレ・リエヴィ

出演＝光岡暁恵、大槻孝志、成田博之、鹿野由之、九嶋香奈枝

合唱＝新国立劇場合唱団

管弦楽＝大阪フィルハーモニー交響楽団

日時：10月24日(水)13:00・25日(木)14:30 開演 2回公演

会場：尼崎市総合文化センター あましんアルカイックホール

入場者数:2,685人(入場率78.9%)
主催:尼崎市/公益財団法人 尼崎市総合文化センター/新国立劇場
助成:公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション
協賛:ローム株式会社

(2)バレエ

○こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」

芸術監督=デヴィッド・ビントレー

音楽=セルゲイ・プロコフィエフ

監修=牧阿佐美

振付=小倉佐知子

出演=新国立劇場バレエ団

1)日時:8月11日(土)14:00 開演 1回公演

会場:兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

入場者数:1,996人(入場率93.9%)

主催:公益財団法人朝日新聞文化財団/大阪国際フェスティバル協会/朝日新聞社/
兵庫県/兵庫県立芸術文化センター

2)日時:8月19日(日)15:00 開演 1回公演

会場:柏崎市文化会館アルフォーレ 大ホール

入場者数:914人(入場率90.3%)

主催:新潟県/新潟県舞踊芸術普及育成事業実行委員会/柏崎市文化会館アルフォーレ

3)日時:8月26日(日)13:00 開演 1回公演

会場:サンポートホール高松 大ホール

入場者数:1,374人(入場率92.7%)

主催:公益財団法人高松市文化芸術財団/高松市

4)日時:9月1日(土)15:00 開演 1回公演

会場:茅ヶ崎市民文化会館 大ホール

入場者数:1,238人(入場率90.0%)

主催:財団法人茅ヶ崎市民文化・スポーツ振興財団

5)日時:9月5日(水)11:50 開演 1回公演

会場:桐蔭学園鶴川メモリアルホール

入場者数:1,350人(入場率81.2%)

主催:学校法人桐蔭学園

(3)演劇

○「音のいない世界で」全国公演

芸術監督=宮田慶子

作・演出=長塚圭史

振付=近藤良平

出演=近藤良平 首藤康之 長塚圭史 松たか子

1)日時:1月22日(火)18:30、1回公演

会場:シベールアリーナ

入場者数:484人(入場率 99.0%)

主催:山形県、公益財団法人弦地域文化支援財団

2)日時:1月24日(木) 19:00 /25日(金)19:00、2回公演

会場:仙台市宮城野区文化センター パトナシアター

入場者数:360名(入場率 94.7%)

主催:仙台市、公益財団法人仙台ひと・まち交流財団、
公益財団法人仙台市市民文化事業団

3)日時:1月27日(日)15:00 /18:30、2回公演

会場:北上市文化交流センター さくらホール

入場者数:794名(入場率 88.2%)

主催:財団法人北上市文化創造、北上市

(4)新国立劇場合唱団外部出演公演

○文化庁 24年度次世代の子どものための舞台芸術体験事業 ヴェルディ「椿姫より乾杯の歌」他

指揮:富平恭平

ピアノ:平塚洋子

合唱:新国立劇場合唱団(30名出演)

日程/会場:9月3日(月)／青森県 平内町立山口小学校

9月4日(火)／青森県 県立青森若葉養護学校

9月5日(水)／秋田県 大館市立早口小学校

9月6日(木)／秋田県 鹿角市立尾去沢中学校

9月7日(金)／岩手県 住田町立有住中学校

9月10日(月)／宮城県 気仙沼市立松岩小学校

9月11日(火)／宮城県 気仙沼市立条南中学校

9月12日(水)／宮城県 大崎市立松山中学校

9月13日(木)／宮城県 登米市立豊里中学校

9月14日(金)／宮城県 女川町立女川第二小学校

9月18日(火)／宮城県 利府町立利府西中学校

9月19日(水)／宮城県 角田市立北角田中学校

9月20日(木)／宮城県 角田市立枝野小学校

○文化庁 24年度次世代の子どものための舞台芸術体験事業 ヴェルディ「椿姫より乾杯の歌」他

指揮:三澤洋史

ピアノ:三澤志保

合唱:新国立劇場合唱団(30名)

日程/会場:2月12日(火)／北海道 札幌市立東札幌小学校

2月13日(水)／北海道 札幌市立ひばりが丘小学校

2月14日(木)／北海道 札幌市立二十四軒小学校

2月15日(金)／北海道 白糠養護学校(釧路)

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績15,396人／目標13,100人(達成度117.5%)

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 歌舞伎鑑賞教室公演については、6月は「俊寛」、7月は「毛抜」を取り上げたが、若手俳優や名題下俳優それぞれの研鑽の機会になり、また、養成研修出身者の存在を世間に大いにアピールする結果となった。「歌舞伎のみかた」では、竹本・長唄・鳴物を交えた歌舞伎俳優研修生による立廻りや女形の化粧をして衣裳を着け、鬘をかける様子をカメラでスクリーンに大写しにするなど見せ方の工夫をした。
- ・ 12月文楽鑑賞教室では、人形の猿が登場し筋も明快な景事、子供のあどけなさが目を引く時代物をあわせて上演することで、初心者の観客に対して多様な魅力を持った文楽の世界の入り口を提示することができた。
- ・ 能楽鑑賞教室の解説では生徒の代表者3~4名が舞台上がり、それぞれに謡や所作を体験し、実際の能舞台の雰囲気を感じてもらった。客席の生徒たちにとっても興味深い体験となった。狂言「柿山伏」はではよく笑いが起きていた。能「葵上」は短縮版にしたこともあり、スピーディな展開となった。観客は総じてよいマナーで舞台を鑑賞していた。
- ・ 文楽劇場では、解説に初めて画像投影を導入し、人形の構造の細かい部分が見えるようにした。また前年度までパネルで示していた人物関係図を投影で大写しにした。
- ・ 国立劇場おきなわの組踊鑑賞教室は、第2部の組踊を鑑賞するに当たって、分かりやすい解説を第1部につけており、初めて組踊を見る生徒にとって楽しく鑑賞する一助となっている。
- ・ 毎年恒例の「高校生のためのオペラ鑑賞教室」では、「ラ・ボエーム」を上演した。本事業開始以来、着実に公演回数を増やし、15回目を迎えた24年度も全6回を実施した。さらに、入場者数は1万人を超え、入場率は97.1%と、今年度もオペラ劇場における全主催公演中で最高の入場率を記録した。
- ・ 子供向けの公演として、こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」を新制作により上演した。こどものためのバレエ劇場として2作目となる今回は、多数の全国の劇場での上演を可能にするため、上演時間、出演人数、舞台装置、場面転換などに工夫を凝らし、全国で5公演を実施することができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 大阪市の貸切公演である「文楽デー」は、本年度実施が見送られたため、観客減の要因の一つとなった。こうした不安定要素にすばやく対応できる体制作りが必要である。

【(小項目)1-2-4】	劇場施設の使用効率の向上等	【評定】			
		A			
		H20	H21	H22	H23
		A	B	B	A

【法人の達成すべき計画】
(7) 劇場施設の使用効率の向上等
ア 振興会が行う伝統芸能の公開、現代舞台芸術の公演等各種事業の実施に支障のない範囲で、伝統芸能の保存振興、現代舞台芸術の振興普及、その他の目的のための事業に対し、劇場施設を積極的に貸与する。その際、主催公演の利用計画の早期決定に努め、利用者に対する利便性の向上を図るとともに、各種事業について効率良く日程を組むなど、劇場の使用効率の向上を図り、来場者の増加を図る観点から貸与日数を増やし、劇場全体の公演回数の増加を図る。なお、中期目標期間における主催公演日数と貸し劇場日数を合計した数を使用可能日数で除した率については、前中期目標期間の実績以上とする。
イ 利用者の利便性を高めるため、各施設及び設備等の概要、利用方法、空き日等の情報をホームページ等により提供する。また、施設等の利用料金については、定期的に他の施設の実態等を調査し、適正な価格となるよう努めるとともに、利用者に対しアンケート調査を適宜実施し、その調査結果を踏まえ、貸与手続きの簡素化・効率化の推進等利用の一層の充実を図る。

実績報告書等 参照箇所

業務実績報告書 157頁～160頁

	H20	H21	H22	H23	H24
伝統芸能分野	A	A	A	A	A
現代舞台芸術分野	B	B	B	A	A

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24
伝統芸能分野 決算額(百万円)	494	498	471	458	443
伝統芸能分野 従事人員数(人)	19	19	19	19	19
現代舞台芸術分野 決算額(百万円)	129	128	107	160	184
現代舞台芸術分野 従事人員数(人)	7	7	7	6	4

- 伝統芸能分野
- 決算額は、
 - ・振興会：劇場使用料収入、稽古室等使用料
 - ・おきなわ財団：劇場使用料収入(財団自己財源)、附属施設使用料(財団自己財源)を計上している。
 - 従事人員数は、各館の貸し劇場担当常勤職員及び国立劇場おきなわ業務管理職員の人数を計上している。
(本館営業部劇場課施設利用室、能楽堂営業課劇場利用係、文楽劇場営業課劇場利用係、新国立劇場・おきなわ部管理課国立劇場おきなわ係)
その際、役員及びその他の職員は勘案していない。
- 現代舞台芸術分野

- 1)決算額は、貸劇場収入を計上している。
 2)従事人員数は、新国立劇場・おきなわ部管理課新国立劇場系の常勤職員の人数を計上している。
 その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

評価基準(年度計画及び評価の視点)	実績	分析・評価																																																																																																																																												
<p>2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演</p> <p>(7) 劇場施設の使用効率の向上等 ア 中期計画に従い、伝統芸能の保存振興、現代舞台芸術の振興普及、その他の目的のための事業に対し、劇場施設を次のとおり貸与するとともに、劇場の使用効率の向上を図ったか。</p> <table border="1" data-bbox="120 549 551 1002"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>貸与日数</th> <th>使用効率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>本館大劇場</td><td>77日</td><td>87%</td></tr> <tr><td>本館小劇場</td><td>157日</td><td>80%</td></tr> <tr><td>演芸場</td><td>102日</td><td>92%</td></tr> <tr><td>能楽堂本舞台</td><td>180日</td><td>68%</td></tr> <tr><td>文楽劇場</td><td>104日</td><td>66%</td></tr> <tr><td>文楽劇場小ホール</td><td>113日</td><td>57%</td></tr> <tr><td>国立劇場おきなわ大劇場</td><td>81日</td><td>44%</td></tr> <tr><td>国立劇場おきなわ小劇場</td><td>73日</td><td>45%</td></tr> <tr><td>新国立劇場オペラ劇場</td><td>30日</td><td>35%</td></tr> <tr><td>新国立劇場中劇場</td><td>148日</td><td>62%</td></tr> <tr><td>新国立劇場小劇場</td><td>100日</td><td>70%</td></tr> <tr><td>(合計)</td><td>1,165日</td><td>66%</td></tr> </tbody> </table>	区分	貸与日数	使用効率	本館大劇場	77日	87%	本館小劇場	157日	80%	演芸場	102日	92%	能楽堂本舞台	180日	68%	文楽劇場	104日	66%	文楽劇場小ホール	113日	57%	国立劇場おきなわ大劇場	81日	44%	国立劇場おきなわ小劇場	73日	45%	新国立劇場オペラ劇場	30日	35%	新国立劇場中劇場	148日	62%	新国立劇場小劇場	100日	70%	(合計)	1,165日	66%	<p>1. 貸与実績</p> <table border="1" data-bbox="586 284 1686 858"> <thead> <tr> <th rowspan="2">劇場</th> <th colspan="2">貸与日数</th> <th colspan="2">使用効率</th> <th>(参考)</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>劇場稼働率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>本館大劇場</td><td>87日</td><td>77日</td><td>86.4%</td><td>87%</td><td>96.5%</td></tr> <tr><td>本館小劇場</td><td>153日</td><td>157日</td><td>78.5%</td><td>80%</td><td>93.9%</td></tr> <tr><td>演芸場</td><td>93日</td><td>102日</td><td>89.1%</td><td>92%</td><td>96.7%</td></tr> <tr><td>能楽堂</td><td>182日</td><td>180日</td><td>69.7%</td><td>68%</td><td>88.4%</td></tr> <tr><td>文楽劇場</td><td>104日</td><td>104日</td><td>70.3%</td><td>66%</td><td>84.5%</td></tr> <tr><td>文楽劇場小ホール</td><td>129日</td><td>113日</td><td>66.8%</td><td>57%</td><td>80.5%</td></tr> <tr><td>小計</td><td>748日</td><td>733日</td><td>77.4%</td><td>76%</td><td>90.4%</td></tr> <tr><td>国立劇場おきなわ大劇場</td><td>55日</td><td>81日</td><td>34.2%</td><td>44%</td><td>74.3%</td></tr> <tr><td>国立劇場おきなわ小劇場</td><td>121日</td><td>73日</td><td>70.7%</td><td>45%</td><td>82.0%</td></tr> <tr><td>小計</td><td>176日</td><td>154日</td><td>49.9%</td><td>44%</td><td>77.6%</td></tr> <tr><td>新国立劇場オペラ劇場</td><td>30日</td><td>30日</td><td>34.7%</td><td>35%</td><td>98.2%</td></tr> <tr><td>新国立劇場中劇場</td><td>157日</td><td>148日</td><td>66.5%</td><td>62%</td><td>91.2%</td></tr> <tr><td>新国立劇場小劇場</td><td>101日</td><td>100日</td><td>71.0%</td><td>70%</td><td>95.2%</td></tr> <tr><td>小計</td><td>288日</td><td>278日</td><td>57.2%</td><td>56%</td><td>95.0%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>1,212日</td><td>1,165日</td><td>67.6%</td><td>66%</td><td>89.9%</td></tr> </tbody> </table> <p>2. 利用者の利便性の向上等</p> <p>① ホームページ、パンフレット等による広報、説明会等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設、設備等の概要及び貸与手続き方法、空き日情報、貸劇場公演情報等を振興会ホームページに掲載した。 施設申込受付期間の案内を、過去5年間の劇場利用者へのダイレクトメールによる案内や、舞踊・邦楽関係の冊子にも掲載して広報を行った。 劇場利用パンフレットを作成して過去の利用者・利用団体・関係団体等に配布・送付した。 簡易版劇場利用案内のリーフレットを作成し、広報用チラシとしてロビー等場内に配置した。 施設申込受付期間や申込受付方法を、楽屋・稽古場等に掲示して周知を図った。 劇場利用希望者に対して申込受付開始前に、申込手続きについての説明及び施設・設備の見学会を開催し、劇場利用者の増加に努めた。(本館小劇場及び文楽劇場小ホール) 保守点検日や整備期間の設定について、関係部署と調整しながら貸与希望者の使用希望日に沿うように調整した。 国立劇場おきなわでは、ホームページやパンフレットによる広報に加えて、主催公演チラシ、国立劇場おきなわ友の会報誌等に貸劇場利用に関する情報を掲載し、一般・会員等への広報宣伝を行った。また、24年度の貸劇場募集の際、説明会を開催し、舞台機構をはじめとした施 	劇場	貸与日数		使用効率		(参考)	実績	目標	実績	目標	劇場稼働率	本館大劇場	87日	77日	86.4%	87%	96.5%	本館小劇場	153日	157日	78.5%	80%	93.9%	演芸場	93日	102日	89.1%	92%	96.7%	能楽堂	182日	180日	69.7%	68%	88.4%	文楽劇場	104日	104日	70.3%	66%	84.5%	文楽劇場小ホール	129日	113日	66.8%	57%	80.5%	小計	748日	733日	77.4%	76%	90.4%	国立劇場おきなわ大劇場	55日	81日	34.2%	44%	74.3%	国立劇場おきなわ小劇場	121日	73日	70.7%	45%	82.0%	小計	176日	154日	49.9%	44%	77.6%	新国立劇場オペラ劇場	30日	30日	34.7%	35%	98.2%	新国立劇場中劇場	157日	148日	66.5%	62%	91.2%	新国立劇場小劇場	101日	100日	71.0%	70%	95.2%	小計	288日	278日	57.2%	56%	95.0%	合計	1,212日	1,165日	67.6%	66%	89.9%	<p>・劇場施設の貸与状況は、国立劇場、演芸場、おきなわ大劇場で未達であるが、能楽堂、文楽劇場、おきなわ小劇場、新国立劇場で目標を達成しており、施設全体の貸与状況は、達成度107.1%と、貸与実績の向上が見られる。</p> <p>・しかしながら、おきなわ大劇場は、目標を大きく上回った小劇場に比べ、昨年度よりもさらに使用効率・稼働率が悪化していることから、その要因分析が必要である。</p> <p>【伝統芸能分野】</p> <p>・劇場施設の貸与状況は、国立劇場、演芸場、おきなわ大劇場で未達であるが、能楽堂、文楽劇場、おきなわ小劇場で目標を達成したことにより、伝統芸能分野全体では目標を達成した。</p> <p>【現代舞台芸術分野】</p> <p>・新国立劇場オペラ劇場で23年度に貸与日数の計画を3倍とするも、今年度も目標をクリアした。中劇場も貸与日数の計画を昨年度比29日増とするも、計画に比べ9日増加した。</p> <p>・新国立劇場オペラ劇場、中劇場、小劇場においては、稼働率がいずれも90パ</p>
区分	貸与日数	使用効率																																																																																																																																												
本館大劇場	77日	87%																																																																																																																																												
本館小劇場	157日	80%																																																																																																																																												
演芸場	102日	92%																																																																																																																																												
能楽堂本舞台	180日	68%																																																																																																																																												
文楽劇場	104日	66%																																																																																																																																												
文楽劇場小ホール	113日	57%																																																																																																																																												
国立劇場おきなわ大劇場	81日	44%																																																																																																																																												
国立劇場おきなわ小劇場	73日	45%																																																																																																																																												
新国立劇場オペラ劇場	30日	35%																																																																																																																																												
新国立劇場中劇場	148日	62%																																																																																																																																												
新国立劇場小劇場	100日	70%																																																																																																																																												
(合計)	1,165日	66%																																																																																																																																												
劇場	貸与日数		使用効率		(参考)																																																																																																																																									
	実績	目標	実績	目標	劇場稼働率																																																																																																																																									
本館大劇場	87日	77日	86.4%	87%	96.5%																																																																																																																																									
本館小劇場	153日	157日	78.5%	80%	93.9%																																																																																																																																									
演芸場	93日	102日	89.1%	92%	96.7%																																																																																																																																									
能楽堂	182日	180日	69.7%	68%	88.4%																																																																																																																																									
文楽劇場	104日	104日	70.3%	66%	84.5%																																																																																																																																									
文楽劇場小ホール	129日	113日	66.8%	57%	80.5%																																																																																																																																									
小計	748日	733日	77.4%	76%	90.4%																																																																																																																																									
国立劇場おきなわ大劇場	55日	81日	34.2%	44%	74.3%																																																																																																																																									
国立劇場おきなわ小劇場	121日	73日	70.7%	45%	82.0%																																																																																																																																									
小計	176日	154日	49.9%	44%	77.6%																																																																																																																																									
新国立劇場オペラ劇場	30日	30日	34.7%	35%	98.2%																																																																																																																																									
新国立劇場中劇場	157日	148日	66.5%	62%	91.2%																																																																																																																																									
新国立劇場小劇場	101日	100日	71.0%	70%	95.2%																																																																																																																																									
小計	288日	278日	57.2%	56%	95.0%																																																																																																																																									
合計	1,212日	1,165日	67.6%	66%	89.9%																																																																																																																																									

<p>た広報を行ったか。</p> <p>② 利用申込受付開始前に、手続きについての説明及び劇場施設・設備の見学会を開催するとともに、利用希望者に対し適宜説明・見学等の機会を設け、劇場利用者の増加に取り組んだか。</p> <p>③ 利用者との事前の打ち合わせを通じて、入場券の点検、劇場内の案内、舞台機構操作等スタッフ、舞台備品等の提供を適切に行うとともに、利用者の求めに応じて、舞台進行、照明デザイン、音響デザイン等について職員の技術協力を行ったか。</p> <p>④ 利用者に対しアンケート調査を実施し、その調査結果を踏まえ、サービスの充実を図ったか。</p> <p>⑤ 他の劇場施設等の調査を引き続き行い、利用方法、利用料金等の検討を行ったか。</p>	<p>設案内等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新国立劇場では、劇場施設の使用の方法及び手続きについて分りやすくホームページに掲載し、24年度を対象とする予約申込については、関係団体(約200団体)に郵送により通知し、上半期分は平成23年4月1日～4月15日の間に、下半期分は同年10月25日～11月7日の間に応募受けを行った。 <p>② 利用者への適切なサービスの提供、職員の技術協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入場券の作成及び販売、場内のアナウンス及び案内業務、備品の貸出、稽古場施設の貸出を行った。 ・ 舞台機構操作、照明操作、音響操作等、舞台関係の技術協力を行った。 (本館)照明1件、音響3件、美術3件、舞台監督等4件、その他(つけ打ち等)20件 (文楽劇場)照明6件、音響3件、舞台5件 (国立劇場おきなわ)舞台監督11件 ・ 新国立劇場では、全ての公演において、入場券の点検、劇場内の案内、クロークなどのサービスを行った。また、オペラ劇場・中劇場・小劇場ともに、舞台進行・照明操作・音響操作等について補助を行った。 <p>③ 利用方法、利用料金等の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他劇場の施設見学方法・貸館事務手続き、舞台設備使用料(音響機材料金)などの料金改定について検討をした。 ・ 新国立劇場の劇場施設の使用料金については、他の劇場施設を参考に据え置きとした。料金体系のないホワイエや会議室の使用料については、他施設の料金表を調査し、それを参考とした。 <p>④ アンケート調査の実施</p> <p>施設利用者への一層のサービス向上を図るため、各館の貸劇場利用者に対しアンケート調査を実施した。</p> <p>(本館・演芸場)配布数175件、回答数69件(回収率39.4%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設利用者の感想として全体的に、良い75%・普通25%・悪い0%であった。全般に概ね好評の回答を得た。その他の意見として、舞台と楽屋が同じ階にあるのが良い、施設利用係の対応が細やかで気持ち良く使用できたなど好評の回答を得た。 <p>(能楽堂)配布数81件、回答数22件(回収率27.2%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体の満足度は86.4%で概ね好評の回答を得た。その他の意見として、使用日決定の早期化希望、使用時間区分の時間帯延長等があった。 <p>(文楽劇場)配布数134件、回答数49件(回収率36.6%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体の満足度は89.4%であった。楽屋について部屋数増加の要望が複数あった。 <p>(国立劇場おきなわ)配布数42件、回答数19件(回収率45%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体の満足度は81%であった。 満足度内訳:①舞台設備について94% ②楽屋について53% ③ロビー・客席について84% ④劇場職員の対応について95% ⑤使用申込みについて84% ⑥受付期間について85% ⑦内定時期について84% ⑧使用料金について84% <p>(新国立劇場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設利用者への一層のサービス向上を図るため、施設利用についてのアンケート調査 	<p>一セントを超えている。今後は、コンサートや講演など劇場主催の公演で高い稼働率を目指してほしい。</p>
--	--	--

を実施した。

【特記事項】

- ・ 新国立劇場では前年度の東京藝術大学に続き、武蔵野音楽大学、国立音楽大学、東京音楽大学、大阪音楽大学、桐朋学園大学、北海道教育大学、昭和音楽大学の7大学との間で連携・協力に関する協定を締結した。この一環として、提携の大学が、芸術家の育成や音楽研究等、オペラ、バレエ上演の基盤を支える教育の場として、劇場施設を活用することが期待されている。
- ・ また、新国立劇場では、オペラ主催公演期間中の休演日に、オペラ研修の一環として舞台を活用することに貢献した。

《数値目標の達成状況》

【劇場施設の貸与状況】

実績 78.6% / 目標 73.4% (達成度 107.1%)

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 本館では、26年度の施設使用の申込を24年12月に受け付けた。今回より、受付期間を従来の2ヶ月間より1ヶ月間に短縮したが、特に混乱もなく実施することができた。
 - ・ 演芸場の施設使用の申込みについて、26年度の使用分より申込み受付開始を前年度から前々年度(25年2月～)に早期化して、貸与日数の増加に努めた。
 - ・ 本館では、26年度小劇場申込抽選会で、会場に施設利用システム搭載のパソコン等を設置し、受付から抽選、施設使用申込書や内定通知書発行までを短時間で処理することができた。
 - ・ 文楽劇場の施設使用の申込みについて、27年度の使用分より申込み受付開始を、本館と同じく前々年度(25年12月～)に早期化して、貸与日数の増加に努めた。
 - ・ 文楽劇場では、大阪の近隣で活動する劇団等との活動連携(5～10月「むりやり堺筋線演劇祭」への参加)により、若い観客層を対象とする劇団の長期演劇公演という従来見られなかった新しいジャンルでの劇場利用を獲得でき、新たな観客層へ文楽劇場の周知ができた。
 - ・ 国立劇場おきなわでは、全体として利用日数が目標を達成し、特に小劇場の使用効率が70%を超え、効率的に劇場を運用することができた。
 - ・ 国立劇場おきなわでは、出演者、稽古室利用者の要望に応え、楽屋口に屋根を設置し階段の高低差を小さくする改修工事を実施し、楽屋口利用者に使いやすく快適な施設環境を提供することができた。
 - ・ 新国立劇場においては、24年度も引き続きコンサート等、オペラ・バレエ・演劇以外の使用希望団体にも広く利用に供し、新しい観客を呼び込み、新国立劇場の周知に役立った。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 本館小劇場が目標に届かなかったことから、劇場利用についてさらなる広報・周知に努め利用者の獲得を図りたい。
 - ・ 新国立劇場では、予約受付の時期を早期化できるよう努めていく。また主催公演の上演や他団体への劇場貸与と並行して、教育的・学究的見地からの劇場の有効活用についても模索していきたい。

<p>【(中項目)1-3】</p>	<p>3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 伝統芸能の保存振興、現代舞台芸術の振興普及を図るため、次のとおり伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術実演家その他の関係者の研修を実施すること。</p>	<p>【評定】</p> <p style="text-align: center;">A</p>			
		H20	H21	H22	H23
		A	A	A	A
<p>【(小項目)1-3-1】</p>	<p>伝統芸能の伝承者の養成</p>	<p>【評定】</p> <p style="text-align: center;">A</p>			
		H20	H21	H22	H23
		A	A	A	A
<p>【法人の達成すべき計画】</p> <p>3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等その他の関係者の研修 [伝統芸能関係]</p> <p>(1) 伝統芸能の伝承者の養成</p> <p>伝統芸能を長期的な視点に立って保存振興し、伝承者を安定的に確保及び養成するため、次のとおり実施する。</p> <p>ア 伝統芸能の各分野の伝承者について、重要無形文化財保持者等を講師として、実技研修・研修発表会等を中心とする実践的・体系的なカリキュラムにより、中期目標の期間中に以下の人数の研修修了を目途とした養成研修を実施する。</p> <p>① 歌舞伎俳優、音楽伝承者養成:24人程度(研修期間2ないし3年間)</p> <p>② 大衆芸能伝承者養成:4人程度(研修期間3年間)</p> <p>③ 能楽伝承者養成:基礎課程5人程度(研修期間:基礎課程3年間、専門課程3年間)</p> <p>④ 文楽伝承者養成:6人程度(研修期間2年間)</p> <p>⑤ 組踊承者養成:9人程度(研修期間3年間)</p> <p>イ 研修修了生を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次のとおり既成者研修を実施するとともに、組踊既成者研修の実施について検討を行う。</p> <p>① 既成者研修発表会・歌舞伎俳優既成者研修発表会(年2回程度)</p> <p>・歌舞伎音楽既成者研修発表会(年1回程度)</p> <p>・能楽既成者研修発表会(年3回程度)</p> <p>・文楽既成者研修発表会(年3回程度)</p> <p>② 能楽研究課程(1年間)</p> <p>③ その他必要に応じた研修</p> <p>ウ 実施に際しては、民間団体の実施動向も踏まえて国として支援が必要な分野に限定するものとし、各分野の公演等に必要な伝承者の人数が確保され、技芸の継承が確実と判断される年齢構成となっている等充足している場合は事業を休止し、不足している場合は事業を再開するなどの方針の下で、毎年度の各分野の実情を踏まえ、対象分野の存廃も含めて不断に見直しを行う。その上で、各分野の伝承者の人数、年齢構成、公開の実施状況等についての把握・調査・検討、研修修了後の就業機会確保のための関係団体等との協議、外部専門家等の意見等を踏まえつつ、養成すべき分野及び人数等を決定する。</p> <p>(3) 実施に当たっての留意事項</p> <p>ア 養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、広報活動を充実する。</p> <p>イ 研修生等が実演経験を積む機会の充実を図るため、児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動への参画に努める。</p>		<p>実績報告書等 参照箇所</p> <p>業務実績報告書 161頁～179頁</p>			

- ウ 幅広い分野で養成・研修事業を実施している振興会の特長を活かし、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流について検討・実施する。
- エ 外部評価、研修実施方法等について、外部の有識者等を含めた委員会等において検討し、その結果を踏まえ、共通科目の統一の実施などメニューや研修実施方法等の改善を図るとともに、事業全体の経費の効率性の向上に努める。また、研修修了生の動向把握により、成果の検証を行う。
- オ 国の文化振興施策との連携に留意しつつ、国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力を努める。

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24
決算額(百万円)	268	258	244	261	271
従事人員数(人)	15	16	16	15	15

- 1) 決算額は、
- ・振興会: 養成研修費、公演費(研修事業)
 - ・おきなわ財団: 養成研修費(財団委託費)を計上している。
- 2) 従事人員数は、各館の養成担当常勤職員及び国立劇場おきなわ業務管理職員の人数を計上している。
(本館養成課、能楽堂企画制作課養成係、文楽劇場企画制作課養成係、新国立劇場・おきなわ部管理課国立劇場おきなわ係) その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

評価基準(年度計画及び評価の視点)

- 3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等その他の関係者の研修
- 中期計画に基づき、次のとおり伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修を実施したか。
- (1) 伝統芸能の伝承者の養成
- ア 以下のとおり養成研修を実施したか。
- ① 歌舞伎俳優・音楽
(歌舞伎俳優: 研修期間3年)
- ・第20期生(9名)の3年目の養成を行ったか。
 - ・第21期生の募集について検討を行い、実施したか。
- (歌舞伎音楽)
- ・竹本第20期生(研修期間2年、1名)の2年目の養成を行ったか。
 - ・竹本第21期生の募集につ

実績

1. 養成研修の実施
- (1) 養成研修の実施

区分	研修期間	研修実績	うち修了者	年度計画	中期計画(20~24年度)		
					修了者累計	目標	
歌舞伎俳優・音楽	俳優 20期(3年次)	3年	9名	9名	9名	25名	24名程度
	竹本 20期(2年次)	2年	1名	1名	1名		
	鳴物(休止)	—	—	—	—		
	長唄 5期(3年次)	3年	2名	2名	2名		
大衆芸能	寄席囃子(休止)	—	—	—	—	2名	4名程度
	太神楽 6期(3年次)	3年	1名	1名	1名		
	太神楽 7期(2年次)	3年	2名	—	3名		

分析・評価

- ・伝統芸能の伝承者の養成は、長年の積み重ねにより毎年伝承者を養成している。
- ・特に、歌舞伎俳優、歌舞伎音楽、文楽の3分野については、伝承者に占める研修修了生の割合が高く、研修修了生の存在なくしては、同分野の存続は困難であり、当該分野を支える重要な存在になっていることを踏まえると、伝承者の養成事業の地道な努力は評価できる。
- ・研修修了生の定着率は76%であり、修了生の4分の1が転業している実態については、検証する必要がある。

いて検討を行い、実施したか。

- ・鳴物第 15 期生の募集について検討を行い、実施したか。
- ・長唄第 5 期生(研修期間 3 年、2 名)の 3 年目の養成を行ったか。
- ・長唄第 6 期生の募集について検討を行い、実施したか。

② 大衆芸能(太神楽:研修期間 3 年)

- ・第 6 期生(1 名)の 3 年目の養成を行ったか。
- ・第 7 期生(3 名)の 2 年目の養成を行ったか。

③ 能楽(ワキ・狂言・囃子:研修期間 6 年)

- ・第 8 期生(4 名)の 5 年目の養成を行ったか。

④ 文楽(大夫・三味線・人形:研修期間 2 年)

- ・第 25 期生(4 名)の 2 年目の養成を行ったか。
- ・第 26 期生の募集について検討を行い、実施したか。

⑤ 組踊(立方・地方:研修期間 3 年)

- ・第 3 期生(9 名)の 2 年目の養成を行ったか。

イ 以下のとおり既成者研修を実施したか。

① 既成者研修発表会を以下のとおり実施したか。

- a. 歌舞伎俳優既成者研修発表会(2 公演実施)
 - ・歌舞伎会・稚魚の会合同公演(本館小劇場) 8 月 23 日~26 日、8 回
 - ・上方歌舞伎会(文楽劇場) 8 月 10 日~11 日、4 回

能楽	8 期(5 年次)	基礎課程 3 年 専門課程 3 年	3 名	2 名	4 名	基礎課程 4 名 専門課程 2 名	基礎課程 5 名程度
文楽	25 期(2 年次)	2 年	4 名	4 名	4 名	9 名	6 名程度
組踊	3 期(2 年次)	3 年	9 名	—	9 名	9 名	9 名程度

(2) 研修発表会等の実施

- ・新人研修発表会(3 月 13 日、本館小劇場)
歌舞伎俳優第 20 期生、竹本第 20 期生、長唄第 5 期生、太神楽第 6・7 期生の研修発表会を合同で実施。
- ・能楽研鑽会 3 回(6 月 11 日・10 月 15 日・3 月 11 日、国立能楽堂)、東西合同研究発表会 1 回(8 月 28 日、大阪大槻能楽堂)
- ・第 25 期文楽研修修了発表会(1 月 27 日、文楽劇場)
- ・第 3 期組踊研修生第 3 回発表会(10 月 4 日、国立劇場おきなわ大劇場)、第 3 期組踊研修生第 4 回発表会(3 月 7 日、国立劇場おきなわ大劇場)

2. 既成者研修の実施

(1) 既成者研修発表会の実施

区分	実績	年度計画	公演名
歌舞伎俳優既成者研修発表会	2 公演	2 公演	「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」「上方歌舞伎会」
歌舞伎音楽既成者研修発表会	1 公演	1 公演	「音の会」
能楽既成者研修発表会	3 公演	3 公演	「若手能」(京都公演・大阪公演・東京公演)
文楽既成者研修発表会	4 公演	4 公演	「文楽若手会(本館、文楽劇場)」「義太夫節に親しむ会(8 月、3 月)」
組踊既成者研修発表会	1 公演	1 公演	第 2 回若手伝承者発表会

(2) 能楽研究課程の開講

能楽の既成者研修として引き続き、研修修了生と能楽師子弟を対象に研究課程を開設した。(受講者 43 名)

3. 伝承者の実態についての把握・調査・検討

- ・本館で実施している歌舞伎、大衆芸能研修については、伝承者の活動状況の実態を調査し、研修修了生の動向の把握に努め、研修生・修了生の現状分析を行うとともに、次年度の実施内容・募集内容についての検討を引き続き行った。特に、大衆芸能分野では、休止中の寄席囃子研修並びに開講中の太神楽研修について、関係団体と協議し、現状及び将来の聞き取りを実施し、今後の養成計画の検討を行った。
- ・能楽研修については、能楽公演実施状況や研修修了生の活動状況について調査するとともに、次期募集へ向けて能楽(三役)の各流儀へ後継者養成に関するアンケートを実施した。
- ・文楽研修については、文楽協会と協議の上、伝承者の人数、年齢構成、公演の実施状況等を調査し、将来にわたる中長期的予測・展望の下に、外部専門家等の意見を踏まえながら、実施内容の見直しを行っている。
- ・組踊研修については、組踊研修講師会議を 5 回開催し、研修生の発表会やカリキュラムの内容等について進捗状況を共有し、芸芸の習得状況を踏まえた指導に努めた。修了生には、1 年間の活

・伝承者に占める研修修了生の割合が極めて低い能楽(6.8%)、組踊(5.5%)については、その要因を検証する必要がある。

・本事業は、意義のある事業ではあるが、1 人当たり年間 4,600 千円強の国費が投入されていることから、実施の必要性を国民に説明する必要がある。

・時代の変化に応じて、養成対象分野について見直しを行う必要がある。

<p>b. 歌舞伎音楽既成者研修発表会(1公演実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> 音の会(本館小劇場)8月4日~5日、2回 <p>c. 能楽既成者研修発表会(3公演実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> 若手能(京都:観世会館)7月28日、1回 若手能(大阪:大槻能楽堂)未定、1回 若手能(東京:能楽堂)3月2日、1回 <p>d. 文楽既成者研修発表会(4公演実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文楽若手会(文楽劇場)6月23日~24日、2回 文楽若手会(本館小劇場)6月29日~30日、2回 義太夫節に親しむ会(文楽劇場小ホール)8月31日、1回 義太夫節に親しむ会(文楽劇場小ホール)3月1日、1回 <p>e. 組踊既成者研修発表会(1公演実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子の会(国立劇場おきなわ大劇場)12月15日、1回 <p>② 能楽について、研究課程を開講し、研修機会の拡大と伝承者間の交流を促進したか。</p> <p>③ その他必要に応じて、既成者に対する研修を適宜実施したか。</p> <p>ウ 中期計画に従い、今後の募集等に向けて、各分野の伝承者の人数、年齢構成、公演の実施状況等についての把握・調査・検討を行い、養成すべき分野、研修期間及び人数等について見直しを行ったか。その上で、研修</p>	<p>動報告書を提出させ、現状把握を行っている。また、外部専門家等の意見を踏まえ、第4期についても従来どおりの人数・研修規模で養成を行うこととし、組踊研修生選考委員会第1回会議を開催し、募集や研修内容等に関する検討を行った。</p> <p>4. 実施に当たっての留意事項</p> <p>(1) 広報活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 本館では、前年度に作成した全5コースを総覧したDVD(歌舞伎俳優・竹本・鳴物・長唄・太神楽の研修内容・実技指導の様子を映像・音声で紹介)に続き、一般に馴染みの少ない歌舞伎音楽についてDVDを作成するため、素材映像の収録等の準備を行った。DVDは、8月の既成者発表会2公演、3月の研修生発表会のロビーでの映写、見学対応時、平成24年実施の歌舞伎俳優・音楽の4コースの募集に際して実施した研修説明会等で活用した。 研修見学会は24年度募集した歌舞伎俳優・竹本・鳴物・長唄の4コース応募希望者を対象に、11月18日(日)、12月8日(土)、1月20日(日)の3回実施し、応募希望者のみならず、古典芸能に関心のある人々を含めた計85名の参加を得て、養成事業の広報に努めた。 3月中旬・下旬に本館の歌舞伎俳優養成事業に対するNHK報道局制作番組の取材に協力し、歌舞伎座再開場を主とした内容に連動して、振興会における養成事業の意義・必要性を述べた担当理事インタビュー、研修発表会時の映像が取り上げられた。TV放映後は多くの問い合わせが寄せられ、事業の周知につながった。 <p>番組名: NHK総合「クローズアップ現代」タイトル「歌舞伎新時代 “日本文化”の行方」 放映日: 平成25年4月2日(火) 19:30~19:56</p> <ul style="list-style-type: none"> 能楽堂では、次期募集へ向けてパンフレット「国立能楽堂能楽(三役)研修概要」を作成した。 文楽劇場では、第26期文楽研修生募集の広報活動として、関西圏を中心としたポスターの駅貼りや新聞への広告掲載を行い、積極的な募集周知を図った。 国立劇場おきなわでは、組踊の養成研修について、研修修了生が学校公演活動を行っている情報をホームページに掲載したり、学校で「子の会」(しーのかい)のパンフレットを配布して周知に努め、研修生募集の一助とした。 <p>(2) 文化普及活動等への参画</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本体育大学体操部主催第44回演技発表会(12月16日(日)、於: 国立代々木競技場第2体育館)に、歌舞伎俳優研修生9名が出演し、歌舞伎の立廻り・とんぼ等の演技を披露した。また、同発表会プログラムへの研修生募集告知の掲載や会場でのチラシ配布などの協力を得て、養成事業の普及と周知活動を行うことができた。 能楽堂では、引き続き渋谷区の社会教育館と共催で「能楽講座」(参加者50名)を開催し、好評を得た。また、普及・振興事業として、「届けます。体験教室」(23校)文化施設等の「ワークショップ」(5件)「楽しもう! 能の世界」(2回)を実施し、小学生たちが能楽に親しみを持つ機会を作るとともに、研修事業の周知に役立てた。 文楽劇場では文楽技芸員や劇場職員により、文楽を身近に感じてもらうための文楽研修見学会を劇場内外で実施した。(8月文楽劇場研修室(文楽研修説明会)、11月大阪府立東住吉高校(文楽研修についての講義)、12月国立劇場レクチャー室(本館養成課と合同での研修見学会)) 国立劇場おきなわでは、親子、生徒等を対象とする鑑賞教室公演に修了生が出演した。また、夏休み親子劇場探検ツアー(8月3・4日)では、実演や体験を交えた組踊ワークショップに修了生が参 	
--	--	--

<p>修了後の就業機会確保のための関係団体等との協議、外部専門家等の意見等を踏まえつつ、養成すべき分野、研修期間及び人数等を決定したか。</p> <p>(3) 実施に当たっての留意事項</p> <p>ア 広報活動の充実 養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、ホームページでの情報発信など広報活動を充実し、事業の周知徹底に努めたか。また、伝統芸能の伝承者の募集について、ホームページでの情報の告知、マスコミ、学校等への働きかけを積極的に行うほか、研修内容を紹介する広報用 DVD 及びパンフレットの活用、研修見学会等の内容の充実により応募者の増加を図ったか。</p> <p>イ 文化普及活動等への参画 研修生等が実演経験を積む機会の充実を図るため、児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動への参画に努めたか。</p> <p>a. 能楽研修生及び研修修了生による能楽入門者を対象としたワークショップを実施したか。また、児童・生徒が伝統芸能を身近に感じることを目的とした体験教室を小・中学校等において実施したか。また、震災の被災地において、学校単位での鑑賞型の体験教室を実施したか。</p> <p>b. 文楽研修生及び研修修了生等により、文楽を身近に感じてもらうためのワークショップを学校等で実施したか。</p> <p>d. 組踊研修修了生による、学校等での組踊ワークショップや劇場外における様々な文化普</p>	<p>加した。また、沖縄県や教育機関に組踊研修修了生で構成する「子の会」(しーのかい)のパンフレットを配布し、学校の芸術鑑賞会等に研修修了生を活用するよう依頼した。その結果、県内高等学校7校で実施した「芸術鑑賞会」に出演することにより劇場外でも文化普及活動への参画に努めることができた。また、南城市芸能公演(2月17日)では、子の会の脚本・演出・出演により、組踊の解説や創作組踊の公演を実施した。</p> <p>(3) 伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 五館合同特別講義、研修生交流会 12月11日(火)14:30~17:30 講義:国立能楽堂大講義室(2階)、交流会:食堂(1階)、施設見学(能舞台・楽屋等) 講師:野村万作(狂言師、第8期能楽(三役)研修狂言方主任講師) 講義内容:「良き舞台人になるために」 研修生参加者:50名及び受講生1名(歌舞伎俳優9名、竹本1名、長唄2名、太神楽3名、太神楽受講生1名、能楽3名、文楽2名、組踊9名、オペラ5名、バレエ5名、演劇11名) <p>(4) 委員会における検討等 養成事業委員会を3月21日(木)に開催し、24年度養成事業実施概要、25年度養成事業実施計画及び振興会の23年度に係る業務の実績に関する評価、次期第3期中期計画(案)・中期目標(案)等について御意見を聴取し、検討を行った。</p> <p>(5) 公演制作者・舞台技術者等の研修の受入れ、協力 歌舞伎鑑賞教室の地方公演において、職員の派遣を行い、現地の技術者等へ協力等を行った。</p> <p>《自己点検評価》</p> <p>○ 良かった点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本館では、昨年度作成した養成研修事業の周知を図るため研修内容を紹介した広報用 DVD を、8月の既成者発表会2公演、3月の研修生発表会のロビーでの映写、見学対応時等の利用で活用し、動画映像による、より具体的な研修内容の理解につなげることができた。特に24年度に実施した歌舞伎俳優・音楽の4コースの募集に際して実施した研修説明会では、歌舞伎俳優だけでなく、音楽の竹本、鳴物、長唄の芸能及び養成内容について参加者の理解の大きな一助になった。 ・ 太神楽研修では、前年度の成果を踏まえ、引き続き第6期生・第7期生と、異なる期の研修生が合同で実技研修を行った。目的を同じくする研修生同士の親交や連帯感が深まるとともに、年度末の修了を控えた第6期生の真剣さが第7期生技芸向上のための良い刺激になった。 ・ 養成事業委員会において、今後の養成事業に反映を図るため、通例議題の評価結果報告・事業実施状況・事業計画に加え、次期第3期中期計画(案)・中期目標(案)について説明し、中期的計画の観点からも伝承者養成分野や養成人数等について外部識者から意見聴取をした。 ・ 能楽第8期生5年目は、開始時は研修生4名(ワキ方1名、囃子方小鼓1名、狂言方2名)だったが、平成24年12月に狂言方1名が辞退したため3名となった。このうちワキ方1名と狂言方1名の計2名は技芸優秀につき主任講師の了承を得て、独立行政法人日本芸術文化振興会伝統芸能伝承者養成研修規程第5条第2項の規定により研修期間を短縮し、6年間のところを5年間で平成25年3月をもって研修を修了した。なお、囃子方小鼓1名については、引続き研修を継続する。 	
--	--	--

及活動への参画に努めたか。
ウ 伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流

幅広い分野で養成・研修事業を実施している振興会の長をを活かし、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を進め、伝統芸能、現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施したか。

エ 委員会における検討等

外部専門家による委員会等において、メニューや研修の実施方法等の検討を行うとともに、その結果を踏まえ、共通科目の統一の実施などの改善を図ったか。また、研修修了生に現在の活動報告を求めるなど動向把握に努め、修了後の活動を通じての成果検証等を行ったか。

オ 公演制作者・舞台技術者等の研修の受入れ等

国の文化振興施策との連携に留意しつつ、国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力を努めたか。

- ・関連業界、受講者等のニーズの変化を踏まえた取組を行っているか。
- ・関連業界への就職率、資格取得割合、修了後の活動状況等、業務の成果・効果が出ているか。
- ・業務の効率化について、教材作成作業等の効率化、研修施設の有効活用、施設管理業務の民間委託等の取組を行っているか。
- ・受益者負担の妥当性・合理性があるか。

- ・ 20年度から実施している能楽堂の普及・振興事業も5年目となり、今年度は新たに、青森・千葉・神奈川・山梨・山口熊本の各学校において「体験教室」等を行うとともに、音楽教員を対象とした「能楽の体験教室」を初めて実施した。
- ・ 第26期文楽研修生の募集に向けて、文楽劇場で「文楽研修説明会」、東京(国立劇場)で「合同研修見学会」、大阪府立東住吉高校にて文楽研修についての講義を行い、養成研修事業の紹介ができた。
- ・ 21年度から実施している研修生への振興会宿舍提供は、現在東京地区で2名(歌舞伎俳優研修生1名、太神楽研修生1名)が利用している。通常に比べ軽い家賃負担で利用できるため、研修期間中の生活費の軽減の助けとなっている。24年度の本館・文楽劇場の研修生選考試験合格者においても、5名の入居希望者があり、地方出身の応募や受入れを促進できる要因となっている。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 太神楽7期生の1名と能楽第8期生の1名が、研修中途辞退となった。中途辞退については、その要因を分析して研修内容・研修方法等の見直しを図るとともに、研修生・講師・職員相互の円滑な意思疎通を図り、研修環境の改善に努めたい。

3-(1)-① 歌舞伎(俳優・音楽)

1. 研修の実施

歌舞伎俳優(研修期間3年):第20期生9名の3年目の研修を実施。

歌舞伎音楽・長唄(研修期間3年):第5期生2名の3年目の研修を実施。

歌舞伎音楽・竹本(研修期間2年):第20期生1名の2年目の研修を実施。

2. 主な授業及び回数、主な講師

区分	授業内容	主な講師	回数	
歌舞伎俳優	歌舞伎実技	澤村田之助、中村時蔵、市川團蔵	127回	
	立廻り・とんぼ	尾上松太郎、荒木達雄	84回	
	日本舞踊	花柳壽輔、花柳寿楽、花柳錦吾、花柳典幸、藤間勘祖、藤間勘十郎、藤間弘	69回	
	義太夫	竹本朝輝	21回	
	長唄	今藤長十郎、今藤政太郎、今藤美知	25回	
	鳴物	田中佐太郎、田中傳次郎、望月太左衛、望月太左寛	29回	
	箏曲	米川文子、米川文清	13回	
	その他 計173回	作法・講義	野村万作	1回
		体操	天森悦子	15回
		公演・稽古見学		15回
舞台・楽屋実習			114回	
衣裳・化粧・かつら		松本錦吾、海老沢孝裕	9回	
部外研修		1回		
その他(発表会等)		18回		
合計			541回	

長唄	実技 計 502 回	長唄	鳥羽屋里長、杵屋浄貢、杵屋巳太郎、杵屋栄十郎、杵屋十三郎、杵屋長四郎、和歌山富之、鳥羽屋里夕、杵屋巳津也、杵屋巳丞、杵屋正園、杵屋巳織	433 回
		謡曲	坂口貴信	20 回
		鳴物	田中佐太郎、田中傳次郎、望月太左衛門、望月太左治、望月太左一郎	49 回
	その他 計 161 回	講義	野村万作、配川美加、	12 回
		体操	天森悦子	22 回
		公演・稽古見学		47 回
		舞台・楽屋実習		76 回
		部外研修		0 回
		その他(発表会等)		4 回
	合 計			
竹本	実技 計 252 回	義太夫(竹本)	竹本喜太夫、竹本葵太夫、竹本谷太夫、竹本東太夫 野澤松也	152 回
		義太夫	竹本駒之助、竹本綾之助、竹本朝輝、鶴澤清介	94 回
		狂言	茂山正邦	6 回
	その他 計 221 回	作法・講義	野村万作、景山正隆、倉田喜弘、近藤瑞男	77 回
		体操	天森悦子	22 回
		公演・稽古見学		56 回
		舞台・楽屋実習		61 回
		部外研修		1 回
		その他(発表会等)		4 回
合 計				473 回

3. 発表会

- ・ 新人研修発表会「第 20 期歌舞伎俳優研修生、第 20 期歌舞伎音楽(竹本)研修生、第 5 期歌舞伎音楽(長唄)研修生、第 6 期・第 7 期大衆芸能(太神楽)研修生発表会」

歌舞伎俳優第 20 期生、竹本第 20 期生、長唄第 5 期生、太神楽第 6・7 期生の研修発表会を合同で実施した。

日時: 3 月 13 日(水)13:00 開演、1 回公演、会場: 国立劇場小劇場

入場料: 無料、入場者数: 461 人

歌舞伎俳優研修生: 歌舞伎「鳥辺山心中」、日本舞踊「島の千歳」、「玉屋」、立廻り「小金吾の立廻り」

竹本研修生: 歌舞伎「鳥辺山心中」、義太夫「団子売」

長唄研修生: 長唄「五色の糸」、長唄「正治郎連獅子」、黒みず音楽「黒みず音楽のさまざま」

4. 募集・選考の状況

歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(竹本・鳴物・長唄)計4コースの研修生募集を実施した。

コース	選考日	応募者数	受験者数	合格者数
歌舞伎俳優	2 月 26 日(火)	15 名	14 名	10 名
歌舞伎音楽(竹本)	2 月 27 日(水)	5 名	5 名	4 名
歌舞伎音楽(鳴物)	3 月 5 日(火)	3 名	3 名	0 名

歌舞伎音楽(長唄)

2月22日(金)

2名

2名

2名

5. 今後の募集等に向けた、関係団体等との協議、見直し等

- ・ 今回募集・選考した歌舞伎4コースについて、選考に際してそれぞれの関係団体担当者、講師が一堂に会した機会に、実演者の現状や動向、それを踏まえた募集等の方向性などについて意見交換をするとともに、振興会の養成事業を取り巻く現状を把握してもらった。

【特記事項】

- ・ 研修の一環として、講師及び関係者を前にした発表会(「あげざらい」)を実施した(一般非公開)。
 - 第20期歌舞伎俳優研修生・第20期竹本研修生 研修発表試演会
 - 日時:平成24年9月18日(火)14:00~16:00
 - 会場:国立劇場大稽古場
 - 内容:歌舞伎「鏡山旧錦絵」當中試合の場(中村時蔵=指導、尾上松太郎=立廻り指導)
 - 「菅原伝授手習鑑」吉田社頭車引の場(市川團蔵=指導、竹本葵太夫=竹本指導)
 - 太鼓「京鹿子娘道成寺」(望月太左衛・望月太左寛=指導)
 - 出演:第20期歌舞伎俳優研修生9名・第20期竹本研修生1名

3-(1)-② 大衆芸能(太神楽)

1. 研修の実施

太神楽(研修期間3年):第6期生1名の3年目の研修を実施。
 太神楽(研修期間3年):第7期生2名の2年目の研修を実施。

2. 主な授業及び回数、主な講師

【第6期生】

区分	授業内容	主な講師	回数
実技 計422回	投げもの	翁家和楽、翁家小楽、鏡味仙三郎、鏡味勇二郎、鏡味繁二郎	170回
	立てもの	翁家和楽、翁家小楽、鏡味仙三郎、鏡味勇二郎、鏡味繁二郎	126回
	日本舞踊	藤間理衣	45回
	囃子(太鼓・笛等)	望月太左衛、望月太左博巳、望月鏡子、望月美沙輔、鏡味仙三郎、鏡味味千代	63回
	寄席囃子	小口けい	18回
その他 計91回	作法・講義	野村万作、倉田喜弘、鏡味勇二郎、鏡味正二郎、瀧川鯉ちゃ、鏡味仙三郎、北川央、鏡味味千代	20回
	体操	天森悦子	21回
	公演・稽古見学		21回
	舞台・楽屋実習		20回
	部外研修	北川央	4回
	その他(発表会等)		5回
合 計			513回

【第7期生】

区分	授業内容	主な講師	回数
実技 計 553 回	投げもの	翁家和楽、翁家小楽、鏡味仙三郎、鏡味勇二郎、鏡味繁二郎	211 回
	立てもの	翁家和楽、翁家小楽、鏡味仙三郎、鏡味勇二郎、鏡味繁二郎、鏡味正二郎	176 回
	日本舞踊	藤間理衣	46 回
	囃子(太鼓・笛等)	望月太左衛、望月太左博巳、望月鏡子、望月美沙輔	49 回
	長唄	杵屋喜三郎、杵屋吉之丞、杵屋寒玉、杵屋勘五郎、	71 回
その他 計 80 回	作法・講義	野村万作、倉田喜弘、北川央	16 回
	体操	天森悦子	24 回
	公演・稽古見学		31 回
	部外研修	北川央	5 回
	その他(発表会等)		4 回
合 計			633 回

3. 発表会

- ・ 新人研修発表会

歌舞伎俳優第 20 期生、竹本第 20 期生、長唄第 5 期生、太神楽第 6・7 期生の研修発表会を合同で実施した。

日時:3 月 13 日(水)13:00 開演、1 回公演、会場:国立劇場小劇場

入場料:無料、入場者数:461 人

太神楽研修生:太神楽「曲桴・五階茶碗・傘」囃子「祭囃子・寄席囃子」

4. 募集・選考の状況

- ・ 次期募集(26 年度開講予定)は、大衆芸能(寄席囃子)を予定している。

5. 今後の募集等に向けた関係団体等との協議、見直し等

- ・ 日本演芸家連合、落語協会、落語芸術協会、太神楽曲芸協会の関係団体と、寄席囃子研修の再開、太神楽研修の休止について、協議した。
- ・ 寄席囃子については、関係団体の考え方、現状、今後の動向をヒアリングし協議を行い、再開の必要性を確認した。現状に即した応募資格等の募集内容、募集方法、講師選定・カリキュラム等の構築について関係団体と協議、検討し、実施を図る予定である。
- ・ 太神楽研修については、寄席囃子研修の再開にあたり、第 7 期生の修了をもって休止とすることについて、関係団体との協議において、実演家の現状から問題ないとの確認に至った。

3-(1)-③ 能楽(三役)

1. 研修の実施

能楽(三役)研修(基礎課程 3 年、専門課程 3 年)第 8 期生 4 名(ワキ方 1 名、小鼓方 1 名、狂言方 2 名)の 5 年目の研修を実施。それぞれ専攻実技と、副科(シテ謡・笛・大鼓・太鼓・講義)の研修も実施し、成果を能楽研鑽会(3 回)において発表した。

平成 24 年 12 月に狂言方 1 名が辞退したため 3 名となった。このうちワキ方 1 名と狂言方 1 名の

計 2 名は技芸優秀につき主任講師の了承を得て、独立行政法人日本芸術文化振興会伝統芸能伝承者養成研修規程第 5 条第 2 項の規定により研修期間を短縮し、6 年間のところを 5 年間で 25 年 3 月をもって研修を修了した。

なお、囃子方小鼓 1 名については、引続き研修を継続する。

2. 主な授業及び回数、主な講師

区分	授業内容	主な講師	回数
ワキ	ワキ謡・型（福王流）	福王茂十郎、福王和幸、福王知登	185 回
小鼓	観世流	観世豊純、観世新九郎	181 回
狂言	狂言・間狂言（和泉流）	野村万作、野村萬斎、石田幸雄	179 回
シテ謡	観世流	観世清和、木月孚行、山階彌右衛門	62 回
笛	一噌流	一噌庸二、藤田次郎	24 回
大鼓	高安流	安福建雄、國川純、安福光雄、柿原弘和	45 回
太鼓	観世流	観世元信、観世元伯	25 回
和裁		堂本朋子	15 回
講義	五館合同特別講義	野村万作	1 回
楽屋・舞台 実習	楽屋作法など	福王茂十郎、観世新九郎、野村万作	399 回
合 計			1,140 回

3. 発表会

(1)「能楽研鑽会」(3 回実施)

・「第 25 回能楽研鑽会」

6 月 11 日(月)16:00 開演、国立能楽堂能舞台
 狂言「成上り」、舞囃子「草子洗小町」小鼓、能「養老」ワキ・アイ
 事前申込制:応募者 775 名(当選者 550 名)

・「第 26 回能楽研鑽会」

10 月 15 日(月)16:00 開演、国立能楽堂能舞台
 狂言「昆布売」、能「賀茂」ワキ・小鼓
 事前申込制:応募者 918 名(当選者 570 名)

・「第 27 回能楽研鑽会」

3 月 11 日(月)16:00 開演、国立能楽堂能舞台
 狂言「清水」、舞囃子「菊慈童」小鼓、能「清経」ワキ
 事前申込制:応募者 889 名(当選者 570 名)

(2)「東西合同研究発表会」(1 回実施)

・「第 43 回東西合同研究発表会」(主催:大阪能楽養成会 共催:京都能楽養成会・国立能楽堂)

8 月 28 日(火) 10:30 開演、大阪大槻能楽堂
 舞囃子「草紙洗」「放下僧」小鼓 入場者数:352 人(入場率 70.1%)

4. 募集・選考の状況

次期第 9 期能楽(三役)研修(26 年度開講予定)の研修生募集の準備として、ワキ方(3 流儀)、囃子方(笛 3 流儀・小鼓 4 流儀・大鼓 5 流儀・太鼓 2 流儀)、狂言方(2 流儀)へ、後継者養成に関するアンケートを実施した。

5. 今後の募集等に向けた、関係団体等との協議、見直し等

講師会議(2回実施)を開催して研修内容・研修方法について意見を徴するとともに、研修修了生の活動状況について調査して、今後の募集等に向けた検討を行った。

次期第9期能楽(三役)研修(26年度開講予定)については、関係団体と協力連携し、また、募集方法を見直し広報用DVDや冊子を活用して積極的な募集を図る。

【特記事項】

・研修の一環として、講師及び関係者を前にした発表会を実施した(一般非公開、3回実施)。

・「第14回稽古会」

日時:4月23日(月)16:00開演、1回公演、会場:国立能楽堂研修能舞台
狂言「成上り」、舞囃子「田村」小鼓、能「養老」ワキ・アイ

・「第15回稽古会」

日時:7月23日(月)16:00開演、1回公演、会場:国立能楽堂研修能舞台
狂言「入間川」、舞囃子「松虫」小鼓、能「鶴」ワキ・アイ

・「第16回稽古会」

日時:2月18日(月)16:00開演、1回公演、会場:国立能楽堂研修能舞台
狂言「清水」、舞囃子「源氏供養」小鼓、能「清経」ワキ

3-(1)-④ 文楽(三業)

1. 研修の実施

第25期生4名の2年目の研修を実施。(内訳:三味線2名、人形2名)

2. 主な授業及び回数、主な講師

区分	授業内容	主な講師	回数
義太夫・三味線	義太夫の実践等	竹本住大夫、豊竹嶋大夫、野澤錦糸	3回
三味線	三味線の実践等	鶴澤寛治、竹澤團七、鶴澤清友、鶴澤清介、野澤錦糸、鶴澤燕三、竹澤宗助	169回
人形実技	人形の足の遣い方等	吉田和生、桐竹勘十郎、吉田玉女、吉田玉也、豊松清十郎	46回
講義	文楽の歴史・概論等	野村万作、倉田喜弘、高木浩志、阪口弘之、山田智恵子、荻田清、望月太明蔵、技術係かしら担当職員、技術係床山担当職員	39回
舞	日本舞踊	山村若	6回
作法	茶道	安田宗敏	14回
その他	稽古・公演見学		57回
その他	舞台実習等		579回
合 計			913回

3. 発表会

「第25期文楽研修修了発表会」(1月27日(日)、14:00開演、文楽劇場、入場者420名)

「団子売」(三味線、人形専攻)

素浄瑠璃「菅原伝授手習鑑」喧嘩の段(三味線専攻)

素浄瑠璃「仮名手本忠臣蔵」裏門の段(三味線専攻)

「ひらかな盛衰記」逆櫓の段(人形専攻)

4. 募集・選考の状況

第26期文楽研修生募集のポスター・チラシを作成し、ポスターの駅掲示や新聞広告を利用するなどのほか、大阪府下の高校や中学校・近畿圏の公共ホール・NHK 各放送局に対して、研修生募集周知の依頼を行った。

第26期文楽研修生を募集し、選考試験を10月30日、3月15日の2回実施した。5名(受験生6名中)が合格。

5. 今後の募集等に向けた、関係団体等との協議、見直し等

文楽研修については、文楽協会と協議の上、伝承者の人数、年齢構成、公演の実施状況等を調査し、将来にわたる中長期的予測・展望の下に、外部専門家等の意見を踏まえながら、実施内容の見直しを行っている。

3-(1)-⑤ 組踊(立方・地方)

1. 研修の実施

第3期生9名の2年目の研修を実施。

2. 主な授業及び回数、主な講師

区分	授業内容	主な講師	回数
組踊実技	立方・地方	宮城能鳳、城間徳太郎、比嘉聰	312回
副実技	琉球舞踊・箏等	玉城節子、安里ヒロ子、大湾清之、新城清弘	39回
基礎実技	発声訓練等	宮里京子、川畑三矢、小波則夫、幸地貞子	96回
講義研修	琉球方言基礎	波照間永吉	11回
	詞章研究	大城學	8回
	演劇・舞踊論	田中英機	8回
	琉球音楽論	金城厚	8回
鑑賞・見学研修等	歌舞伎鑑賞等	野村万作	24回
その他	研修発表会等		4回
合 計			510回

3. 発表会(2回実施)

・ 第3期組踊研修生第3回発表会(10月4日(木)19:00~20:45、国立劇場おきなわ大劇場、入場者496名)

発表演目:組踊「銘苅子」、舞踊「作田」「前之浜」

・ 第3期組踊研修生第4回発表会(3月7日(木)19:00~20:40、国立劇場おきなわ大劇場、入場者454名)

発表演目:組踊「孝行の巻」、琉球舞踊「谷茶前」、「鳩間節」

4. 募集・選考の状況

第4期組踊研修生(研修期間3年)の募集に向けて、25年3月4日(月)、第4期組踊研修生選考委員会第1回会議を開催した。

5. 今後の募集等に向けた、関係団体等との協議、見直し等

組踊研修講師会議を5回実施し、発表会やカリキュラムの内容等について進捗状況を共有し、芸の習得状況を踏まえた指導に努めた。また、半年ごとに組踊研修講師から研修生の評価表の提出を受け、それをもとに今後の研修の実施や募集等に関する検討会を実施した。

【特記事項】

平成25年3月特別企画公演「聞得大君誕生」の舞台稽古を研修生・研修修了生・講師ともに見学した。同じ伝統芸能でもジャンルの異なる歌舞伎俳優の坂東玉三郎と共演した研修修了生をはじめ、第3期研修生にとっても大きな収穫となった。

3-(1)-⑥ 既成者研修

1. 既成者研修発表会

(1) 歌舞伎俳優既成者研修発表会(実績2回・目標2回)

第18回稚魚の会・歌舞伎会合同公演	期間	日数・回数	会場
	8/23(木)~26(日)	4日8回	本館小劇場

内容:「絵本太功記」尼ヶ崎閑居の場(中村魁春・市川團蔵=監修・指導)、「妹背山婦女庭訓」道行恋芋環(藤間勘祖=振付)、「身替座禅」(藤間勘祖=振付)

開演時間:11:00/16:00

入場料金:4,000円(学生2,800円)、障害者割引2割引、入場者数3,315人(入場率79.4%)

第22回上方歌舞伎会	期間	日数・回数	会場
	8/10(金)~11(土)	2日4回	文楽劇場

内容:「恋飛脚大和往来」新町井筒屋の場—封印切—、新口村の場(片岡仁左衛門・片岡秀太郎・片岡我當=指導)、「加賀の千代」「うかれ角兵衛」「浮無瀬の猩々」(山村若=振付)

開演時間:11:00/16:00

入場料金:4,000円(学生2,800円)、障害者割引2割引、入場者数2,288人(入場率84.5%)

(2) 歌舞伎音楽既成者研修発表会(実績1回・目標1回)

第14回音の会	期間	日数・回数	会場
	8/4(土)~5(日)	2日2回	本館小劇場

内容:鳴物・長唄「老松」、長唄「五條橋」、長唄「めりやす 女気」、鳴物・長唄「正治郎 連獅子」、歌舞伎「新版歌祭文」野崎村百姓久作住家の場・同 土手の場(中村福助=監修・指導)

開演時間:16:00

入場料金:2,500円(学生1,750円)、障害者割引2割引、入場者数955人(入場率91.5%)

(3) 能楽既成者研修発表会(実績3回・目標3回)

第22回能楽若手研究会:「若手能」京都公演	期間	日数・回数	会場
	7/28(土)	1日1回	京都観世会館

内容:能「小督」、舞囃子「放下僧」「実盛」「天鼓」、狂言「伯母ヶ酒」、能「船弁慶」

開演時間:11:00

入場料金:3,000円(当日)2,500円(前売・一般)1,500円(学生)

入場者数:516人(入場率 108.9%)

第 22 回能楽若手研究会:「若手能」大阪公演	期間	日数・回数	会場
	1/19(土)	1日1回	大阪大槻能楽堂

内容:能「杜若」、素囃子「鞆鼓」、狂言「棒縛」、能「安達原」

開演時間:13:00

入場料金:3,000円(当日)2,700円(前売・一般)1,500円(学生)

入場者数:512人(入場率 102.0%)

第 22 回能楽若手研究会:「若手能」東京公演	期間	日数・回数	会場
	3/2(土)	1日1回	国立能楽堂

内容:能「杜若」、狂言「鎌腹」、能「安達原」

開演時間:13:00

入場料金:正面3,000円・脇正面2,500円(学生1,800円)・中正面2,000円(学生1,400円)、障害者2割引

入場者数:582人(入場率 92.8%)

(4)文楽既成者研修発表会(実績4回・目標4回)

第 12 回文楽若手会	期間	日数・回数	会場
	6/23(土)~24(日)	2日2回	文楽劇場

内容:「二人三番叟」「義経千本桜」すしやの段、道行初音旅

開演時間:13:00

入場料金:2,000円(学生1,400円)、障害者割引2割引、入場者数1,379人(入場率 94.3%)

第 1 回文楽若手会	期間	日数・回数	会場
	6/29(金)~30(土)	2日2回	国立劇場小劇場

内容:「二人三番叟」「義経千本桜」すしやの段、道行初音旅

開演時間:13:00

入場料金:2,500円(学生1,800円)、障害者割引2割引、入場者数1,080人(入場率 97.6%)

第 11 回義太夫節に親しむ会	期間	日数・回数	会場
	8/31(金)	1日1回	文楽劇場小ホール

内容:「絵本太功記」妙心寺の段(豊竹靖大夫、豊澤龍爾)、「日吉丸稚桜」駒木山城中の段(豊竹芳穂大夫、野澤喜一郎)

開演時間:18:30

入場料金:1,000円(学生700円)、障害者割引2割引、入場者数155名(入場率 97.5%)

第 12 回義太夫節に親しむ会	期間	日数・回数	会場
	3/1(金)	1日1回	文楽劇場小ホール

内容:「一谷嫩軍記」熊谷陣屋の段 前(豊竹睦大夫、鶴澤清直)、後(豊竹希大夫、鶴澤清文)

開演時間:18:30

入場料金:1,000円(学生700円)、障害者割引2割引、入場者数161名(入場率101.3%)

(5)組踊既成者研修発表会(実績1回・目標1回)

	期間	日数・回数	会場
第2回若手伝承者発表会	12月15日(土)	1日1回	国立劇場おきなわ大劇場

内容:組踊「手水の縁」、琉球舞踊「女特牛節」、斉唱「出砂節」・「辺野喜節」

開演時間:14:00

入場料金:2,000円(学生1,000円)、障害者割引、友の会・団体割引等、入場者数308人(入場率53.3%)

2. 能楽研究課程

研究生43名が受講した(実施回数:420回)。本課程では、若手能楽師が専攻以外の副科(シテ謡・笛・小鼓・大鼓・太鼓)を受講し、他役・他流との交流を経験し研鑽を積んだ。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 今年度、周囲の要望に応え、文楽若手会が東京でも開催され、若手にとって貴重な研鑽の場として好評を博した。
- ・ 8月開催の音の会、稚魚の会・歌舞伎会合同公演については、各ジャンルの若手俳優、演奏家が参加し、意義深い既成者研修の場となった。特に音の会は本年度より長唄修了生による発表の演目加わり、より充実した会の展望が期待できる契機となった。
- ・ 「若手能」は、京都公演・大阪公演、東京公演ともに多くの観客を動員することができた。出演者が積極的に集客活動を行い、若い観客が増加傾向にあることは良い傾向である。また、東京公演では、振興会ホームページに公演広報を掲載して、観客動員とともに養成修事業を周知することができた。
- ・ 昨年度より開始した組踊既成者研修発表会は、2回目ということもあり順調な集客効果を挙げた。組踊研修修了生が既成者研修をはじめ自主公演、小中高の芸術鑑賞会へ出演し、伝統芸能普及活動を充実させることで、後継の第3期研修生にとっても将来の具体像が見えて、良い刺激となった。

3-(1)-⑦ 実施に当たっての留意事項

1. 広報活動の充実

- ・ 本館では、既に作成した研修事業紹介の媒体(冊子、DVD)を活用して日常の広報活動に役立たせたほか、「研修見学会」を、11月18日(日)、12月8日(土)、1月20日(日)の計3回実施し、24年度募集した歌舞伎俳優・竹本・鳴物・長唄の4コース応募希望者の他、古典芸能に関心のある人々を含めた計85名の参加を得て、養成事業の広報に努めた。
- ・ 応募期間中に、新聞に11回雑誌等に9回募集広告を掲載した結果、応募者増につながった。
- ・ 3月中旬・下旬に本館の歌舞伎俳優養成事業に対するNHK報道局制作番組の取材に協力し、

歌舞伎座再開場を主とした内容に連動して、振興会における養成事業の意義・必要性を述べた担当理事インタビュー、研修発表会時の映像が取り上げられた。TV 放映後は多くの問い合わせが寄せられ、事業の周知につながった。

- ・ 能楽堂では、次期募集へ向けて、写真を多用した分かりやすいパンフレット「国立能楽堂能楽(三役)研修概要」を作成した。
- ・ 国立劇場おきなわでは、今年度も引き続き沖縄県や教育機関に組踊研修修了生「子の会」(しーのかい)のパンフレット配布や、ホームページで研修修了生が学校公演活動を紹介する広報を行った。

2. 文化普及活動等への参画

(本館)

- ・ 日本体育大学体操部主催第 44 回演技発表会(12 月 16 日(日)、於:国立代々木競技場第 2 体育館)に、歌舞伎俳優研修生 9 名が出演、歌舞伎の立廻り・とんぼ等の演技を披露した。また、同発表会プログラムへの研修生募集告知の掲載や会場でのチラシ配布などの協力を得て、養成事業の普及と周知活動を行うことができた。

(能楽堂)

- ・ 研修生及び研修修了生を講師として以下の講座・ワークショップを実施し、能楽の普及振興を図った。
 - 一つの能楽器を集中的に稽古する「連続講座」(有料 6 月「大鼓」全 5 回 応募者 44 名)を実施し、最終日にはミニ発表会を開催した。
 - 研修能舞台にて実施する「楽しもう! 能の世界」(体験+舞台鑑賞)(9 月「舞の世界」応募者 51 名、11 月「狂言」応募者 21 名)を継続して実施した。「舞の世界」は上級者向けの新講座で、初心者向けから一歩進んだ企画となった。
 - 学校における「届けます。体験教室」(東京 1 校、地方 22 校で実施、体験参加者 1,117 名、鑑賞会形式参加者 1,580 名)を継続して実施した。
 - 地域の社会教育館と連携した「能楽講座」(6 月全 7 回、参加者 50 名)、地方の文化会館を利用して行うワークショップ(新潟・赤穂)を引き続き実施した。

(文楽劇場)

- ・ 文楽技芸員の協力も得て「研修説明会」を劇場内で開催し、養成研修事業の意義を周知した。(8 月 29 日(水)、国立文楽劇場第 7 研修室、8 名参加)
- ・ 大阪府立東住吉高校芸能文化科 3 年生 39 名を対象に養成事業についての講義を実施した。(11 月 28 日(水)東住吉高校内)

(国立劇場おきなわ)

- ・ 国立劇場おきなわでは、組踊研修修了生が実演経験を積む機会づくりの促進と組踊の普及を図るため、国立劇場おきなわ社会人のための組踊教室(6 月 24 日)、親子のための組踊鑑賞教室(8 月 11 日)、生徒のための組踊鑑賞教室(11 月 15・16 日)や夏休み親子劇場探検ツアー(8 月 3・4 日)の中の実演や、体験を交えた組踊ワークショップへ修了生を起用している。
- ・ 劇場外でも上記 1 の広報活動の結果、沖縄県立小禄高等学校(10 月 15 日)、沖縄県立開邦高等学校(10 月 19 日)、沖縄県立宜野湾高等学校(11 月 7 日)、沖縄県立八重山高等学校・八重山商工高等学校・八重山農林高等学校(11 月 8 日)、沖縄県立南風原高等学校(12 月 12 日)での「芸術鑑

賞会」に研修修了生が出演し、文化普及活動への参画に努めた。

3. 伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流

幅広い分野で養成・研修事業を実施している振興会の特長を活かし、各分野の研修生が一堂に会して一流の舞台芸術家から舞台に対する心構えを学ぶとともに、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を図った。

- ・ 五館合同特別講義、研修生交流会

12月11日(火)14:30~17:30

講義: 国立能楽堂大講義室(2階)、交流会: 食堂(1階)、施設見学(能舞台・楽屋等)

講師: 野村万作(狂言師、第8期能楽(三役)研修 狂言方主任講師)

講義内容: 「良き舞台人になるために」

研修生参加者: 50名及び受講生1名(歌舞伎俳優9名、竹本1名、長唄2名、太神楽3名、太神楽受講生1名、能楽3名、文楽2名、組踊9名、オペラ5名、バレエ5名、演劇11名)

4. 委員会における検討等(メニューや研修の実施方法等の検討、研修修了生の動向把握)

養成事業委員会を3月21日(木)に開催し、24年度の実施状況、25年度事業実施計画及び振興会の23年度に係る業務の実績に関する評価等について検討を行った。

5. 公演制作者・舞台技術者等の研修の受入れ、協力

- ・ 歌舞伎鑑賞教室の地方公演において、職員の派遣を行い、現地の技術者等へ協力等を行った。

【関連業界、受講者等のニーズの変化を踏まえた取組の状況】

以下の項目を参照。

項目別-148~149 「1. 養成研修の実施」

項目別-149 「2. 既成者研修の実施」

項目別-149~150 「3. 伝承者の実態についての把握・調査・検討」

項目別-150~151 「4. 実施に当たっての留意事項」

【業務の成果・効果】

以下の項目を参照。

項目別-148~149 「1. 養成研修の実施」

項目別-149 「2. 既成者研修の実施」

項目別-150~151 「4. 実施に当たっての留意事項」

(参考)

○研修修了生の就業状況

(25年4月末現在)(単位:人)

区分	研修修了生総数	研修修了生の内訳		定着率(B)/(A)	備考
		就業者	転業者等		

	(A)	合計 (B)	現在従事し ている者	現在従事し ていない者			
歌舞伎俳優	162	111	95	16	51	69%	第1期～20期
歌舞伎音楽(竹本)	37	29	26	3	8	78%	第1期～20期
歌舞伎音楽(鳴物)	23	15	15	0	8	65%	第1期～14期
歌舞伎音楽(長唄)	9	9	7	2	0	100%	第1期～5期
大衆芸能(寄席囃子)	33	30	18	12	3	91%	第1期～12期
大衆芸能(太神楽)	11	9	9	0	2	82%	第1期～6期
能楽(三役)	35	28	27	1	7	80%	第1期～8期
文楽(三業)	69	51	42	9	18	74%	第1期～25期
組踊(立方・地方)	19	19	19	0	0	100%	第1期～2期
合計	398	301	258	43	97	76%	

※「就業者」のうち「現在従事していない者」は、10年以上伝承者として従事した後に転業等をした者。

※「転業者等」は10年未満伝承者として従事した後に転業等をした者。

(参 考)

- ・ 歌舞伎俳優の「転業者等」のうちには、日本舞踊家(花柳翫一、坂東守也等)、文楽技芸員(豊竹芳穂大夫)、常磐津演奏者(常磐津二三太夫)等になった者がいる。
- ・ 寄席囃子の「転業者等」のうちには、俗曲に転向した者(檜山うめ吉)がいる。
- ・ 能楽研修は、第1期～第6期は新人研修3年・既成者研修3年の6年間で実施し、第7期以降は新人研修6年(基礎研修課3年・専門研修 課程3年)で実施している。
- ・ 文楽三業の「転業者等」のうちには、歌舞伎音楽・竹本(野澤松也・竹本鳴門大夫)に転向した者がいる。

○伝統芸能の伝承者に占める研修修了生の割合 (25年4月末現在)(単位:人)

区分	伝承者の総数	研修修了生(就業者)の総数	研修修了生の割合
歌舞伎俳優	301	95	31.6%
名 題	175	29	16.6%
名題下	126	66	52.4%
歌舞伎音楽(竹本)	31	26	83.9%
太 夫	18	16	88.9%
三味線	13	10	76.9%
歌舞伎音楽(鳴物)	39	15	38.5%

歌舞伎音楽(長唄)	44	7	15.9%
大衆芸能(寄席囃子)	21	18	85.7%
大衆芸能(太神楽)	24	9	37.5%
能楽(三役)	400	27	6.8%
ワキ方	57	6	10.5%
笛方	62	6	9.7%
小鼓方	63	4	6.3%
大鼓方	45	1	2.2%
太鼓方	38	4	10.5%
狂言方	135	6	4.4%
文楽(三業)	86	42	48.8%
大夫	24	10	41.7%
三味線	21	12	57.1%
人形遣	41	20	48.8%
組踊(立方・地方)	347	19	5.5%
立方	63	8	12.7%
地方	284	11	3.9%

【業務の効率化についての取組状況】

以下の項目を参照。

項目別－149～150「3. 伝承者の実態についての把握・調査・検討」

項目別－150～151「4. 実施に当たっての留意事項」(4)

【受益者負担の妥当性・合理性】

以下の項目を参照。

項目別－148～149「1. 養成研修の実施」

項目別－149「2. 既成者研修の実施」

項目別－150～151「4. 実施に当たっての留意事項」(1)(2)

(参考)

○新人研修生1人当たりの養成・研修に係る経費(24年度) (単位:人・千円)

種別	人数	決算額	1人当たりの年間経費
歌舞伎俳優	9	34,803	3,867
歌舞伎音楽(竹本)	1	8,796	8,796
歌舞伎音楽(長唄)	2	13,397	6,699

	大衆芸能(太神楽)	3	19,045	6,348	
	能楽	4	26,037	6,509	
	文楽	4	23,367	5,842	
	組踊	9	21,960	2,440	
	合計・平均	32	147,405	4,606	
	その他				
	既成者研修経費(国立劇場)		200,527		